2021 第33回 千葉県建築学生賞作品集

chiba architecture graduate' prize Works

http://www.chibagakuseisyou.jp/

第33回千葉県建築学生賞作品集　2021

第33回 千葉県建築学生賞

千葉県建築卒業設計

コンクール

参加大学

- 千葉大学 工学部 建築学科
- 千葉大学 工学部 都市環境システム学科
- 千葉工業大学 創造工学部 建築学科
- 千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科
- 東京電機大学 未来科学部 建築学科
- 東京理科大学 理工学部 建築学科
- 日本大学 生産工学部 建築工学科
- 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
- 日本大学 短期大学部 建築・生活デザイン学科
- 千葉職業能力開発短期大学校

参加高校

- 千葉県立京葉工業高等学校 建設科
- 千葉県立市川工業高等学校 建築科
- 千葉県立東総工業高等学校 建設科

概要

展示・公開審査	2020年3月13日（土）10:00〜18:00
展示	14日（日）10:00〜14:00
会場	千葉市文化センター5階 セミナー室 千葉市中央区中央2-5-1千葉中央ツインビル2号館
主催	公益社団法人　日本建築家協会 千葉地域会（JIA千葉） 公益社団法人　千葉県建築士事務所協会 一般社団法人　千葉県建築士会 一般社団法人　日本建築学会関東支部千葉支所
後援	千葉県 / 千葉県教育委員会 / 千葉市 / 千葉市教育委員会 / NHK千葉放送局 / 千葉県ケーブルテレビ協議会 / 朝日新聞 千葉総局/読売新聞 東京本社千葉支局 / 毎日新聞社 千葉支局 / 産経新聞社 千葉総局 / 日本建設新聞社 / 日刊建設工業新聞社 千葉総局 / 日刊建設通信新聞社 東関東支局

出典作品

渡邉　大祐	里浦再興計画 千葉大学　工学部　総合工学科都市環境システムコース
山戸　善伸	未成熟の遺産　住×遺産×植林×観光の交わる足尾銅山転換計画 日本大学　理工学部　海洋建築工学科
佐藤　伶香	雪とともに住まう　「溶かす」から「と化す」へ 千葉工業大学　創造工学部　建築学科
岩梨　竜也	空き時間の使い方　駅から使う図書館の提案 千葉職業能力開発短期大学校　住居環境科
高砂　昂大	祭礼再考　山車でつなぐ町の記憶 東京電機大学　未来科学部　建築学科
内野　佳音	綴く半透明の物語 日本大学　生産工学部　建築工学科
竹村　寿樹	商店街における公共的余白 千葉工業大学　創造工学部　建築学科
田村　千空	潦　湖面を統べる自然の学び舎 日本大学　短期大学部　建築・生活デザイン学科
清水　龍太	遊びと学びと小学校 千葉工業大学　創造工学部　デザイン科学科
下田　ことみ	ヨハクリング　余白から鼓動した本当にいい病院のあり方 日本大学　生産工学部　建築工学科
結城　和佳奈	ナラティブを紡ぐネットワーク 東京理科大学　理工学部　建築学科
佐藤　駿介	生業に宿る　宿場の構図と生業の関係性による小田原の再編 日本大学　理工学部　海洋建築工学科
能浦　未帆	Detox Island 東京電機大学　未来科学部　建築学科
柿添　蓮	江戸薫る橋架　点在する文化財を繋ぐ後継者養成施設 千葉大学　工学部　総合工学科都市環境システムコース
森田　雅大	建築美幸論 千葉大学　工学部　総合工学科建築コース
前橋　宏美	石にトドマリ、石を感じるワイナリー 東京理科大学　理工学部　建築学科
白石　なつみ	「ひとり」になりに 集う場所　様々な「ひとり空間」のある図書館 千葉工業大学　創造工学部　デザイン科学科
馬渕　望夢	虚構と現実の狭間で 千葉大学　工学部　総合工学科建築学コース

ナラティブを防ぐ ネットワーク No.11

雪とともに住まう 「溶かす」から「と化す」へ No.3

祭礼再考 山車でつなぐ町の記憶 No.5

綴く半透明の物語 No.6

No.15 建築美幸論

未成熟の遺産 住×遺産×植林×観光の交わる足尾銅山転換計画 No.2

石にトドマリ、石を感じるワイナリー No.16

ヨハクリング No.10

商店街における公共的余白 No.7

遊びと学びと小学校 No.9

千葉県建築学生賞協議会

第33回

chiba architecture graduate' prize

作品集 Works

目次

03 開催の報告と挨拶
05 審査総評
07 大学作品
43 審査経過
00 審査員紹介
47 高校作品
49 なの花会メンバーから
51 審査員紹介
57 協賛
58 主催者団体

空き時間の使い方 駅から使う図書館の提案 No.4

潦 湖面を統べる自然の学び舎 No.8

Detox Island No.13

里浦復興計画 No.1

生業に宿る 宿場の構図と生業の関係性による小田原の再編 No.12

虚構と現実の狭間で 余白から鼓動した本当にいい病院のあり方 No.18

江戸薫る橋架 点在する文化財を繋ぐ後継者養成施設 No.14

「ひとり」になりに集う場所 様々な「ひとり空間」のある図書館 No.17

開催の報告と挨拶

田端　友康（たばた ともやす）
千葉県建築学生賞協議会 会長

凛として生きる

第33回千葉県建築学生賞におきまして、開催についてご理解とご協力を頂き誠にありがとうございました。本年は、大学の部7大学10学科から18作品、高校の部3校3科5作品が出展され、会場は千葉市中央区の千葉市文化センター5階セミナー室にて、3月12日の搬入、13日のWEB配信による公開審査、14日の展示と搬出が行われました。昨年に続き新型コロナウイルス感染症による影響により開催も危ぶまれましたが、関係者の皆様のご協力のもと万全の準備と慎重な開催運営により無事に終えることができました。千葉県建築学生賞は、千葉県内の建築関連主催4団体と協力団体・協賛会から出向された50名を超える委員メンバーのボランティアと県内の行政・企業などの後援をいただいて運営されています。出展の大学及び高校の関係者様含め皆様のご協力とご理解に改めまして感謝いたします。

33年前の第1回から学生にエールを贈ることを目的としてきたことを昨年同様に今年も主題とし、どうすれば人を集めずに、審査の公正公平と学生にとって他者の意見を聞く機会を確保することができるのか、さまざまに検討を重ねました。昨年は準備期間がなく行った公開審査のWEB配信を改善し、昨年に国際的な見解意見のために来日して頂いたイタリアの建築家アントニオ・エスポジト氏には、時差もある中ご無理を言ってWEB参加で特別審査員を受けて頂きました。加えて一昨年まで公開審査の後に懇親会にて気兼ね無く審査員や他の建築家の皆様と意見をぶつけ合う場がありましたが、昨年はそういう場を設けられませんでしたので、今年は2日目に過去出品者の会「なの花会」による作品レビューを行えました。審査員や審査の場とは違った感じ方や意見・アドバイスなど意見交換しながら少ない時間でしたが充実できたかと思います。

審査結果である賞については最優秀賞・優秀賞・特別賞・奨励賞の他に構造設計者から贈られる「JSCA賞」や前出の過去出展者の会から「なの花賞」、特別審査員アントニオ・エスポジト氏からの「特別審査員賞」と評価を贈ることができました。一方、人を集められないことから一般市民の意見を聞く「市民賞」は中止となっており工夫するべき余地はまだまだありそうです。

AIが全人類の知能を超える（基準はわかりませんが）時がすぐそこまできているそうです。明確な目標を立て、それに必要なことものを効率よく揃えていかなければ遭難・難破する。その目標は独りよがりの自分基準ではないか、他人のためになるのか自問しながら、真っ直ぐ胸張って目標を捉えているのか。我々もそうですが、出展した学生達が、全力で取り組んだ作品とその評価が、大切なアンカーポイントとなって目標を見失うことなく皆様が更なる努力を重ね、次の時代・AIと共存の時代を「凛とした佇まい」で築いていくことを期待しています。今後の建築界を支える彼らに共にエールを贈り続けるために、今後も引き続き皆様のご協力のお願いを申し上げます。

第32回千葉県建築学生賞協議会 会長　田端 友康

審査総評

飯沼　竹一（いいぬま たけいち）
千葉県建築学生賞協議会 審査委員長

この第33回学生賞に出展した学生のみなさんは、コロナ禍により一年間大変厳しい環境での作品制作となったことと思います。このような中でも苦労の末、各大学を代表する作品を作り上げたことを大いに評します。

嬉しいことに、この社会情勢の中にあっても個性豊かで素晴らしい18の作品が集まりました。例年であれば審査、展示会場をオープンにしつつ、出展学生と自由なディスカッションを行いながら審査するのがこの千葉県建築学生賞の特徴でした。しかしながら、昨年同様、公開が制限され、さらに緊急事態宣言延長により、会場の利用時間が大きく短縮されたため審査時間も短くなり、我々審査員も緊張の中迷うこと無くジャッジすることが求められました。それでも、審査はWeb公開の中、学生の強い想いのプレゼンがあり、それを真摯に読込み、討議、投票を経た審査は納得できる結果を出せたと思います。

また、特別審査員としてイタリアの建築家アントニオ氏にリモート参加いただき、審査に華を添えることができました。

学生にエールを送るという第一の目的のもとでの開催ですが、私たちも学生のみなさんから大いに刺激をもらう場が持てたことに改めて感謝するものです。

さて、今回の審査を終えて気になったいくつかの作品の講評をお伝えしたいと思います。

・最優秀賞のNo.16「石にトドマリ、石を感じるワイナリー」。利用価値が無くなった石切場をワイナリーとワイン工場に変換するアイディア、石面を緑化する断面構成などが素晴らしく、十分な説得力があったことから審査過程の早い段階から一抜けした作品でした。レストランや宿泊施設の提案は楽しそうな雰囲気で、とても良かったのです。欲を言えばブドウ畑と醸造所の関連や貯蔵空間の計画も見たいと感じました。

・優秀賞のNo.2「未成熟の遺産」。コンセプトや表現が独創的で興味を引く提案で、鈍くしぶい色彩がとても魅力的な作品になっています。ただ他審査員からも指摘あったように、住宅や図書館などを安易に入れるとロジックが曖昧になって面白く無くなるように感じました。この独特な発想と空間に合う使い方を再検討して欲しいです。

・優秀賞のNo.6「綴る半透明の物語」。相当な時間と労力を掛けて考えられた執念さえ感じる大作です。廃墟の修道院を取り囲む回廊のプログラムが少し分かりにくく感じましたが、それでも建築として用途を持たない空間として充分面白く引き付ける魅力があります。ロマネスクと現代表現などもう少し丁寧な説明が必要だと感じました。

なお、これら3つの入賞作品は、日本建築家協会（JIA）全国大会に出展されます。第33回を代表することの栄誉を胸に、出展時までに更なるブラッシュアップをしてください。コロナ禍の影響から出展条件や審査方法が現時点で不明ですが、オンラインでのプレゼン方法も効果的な見せ方、説明の仕方を検討工夫して欲しいと思います。

・特別賞のNo.10「ヨハクリング」。総合病院の療養型ベッドやホスピスなどの一部機能を抜き出し、街のすき間に置いてそれらをリンクさせる発想が大胆で秀逸です。ガゼボという半屋外空間を提案しているが患者施設との関わりや効果が今一つ曖昧です。しかし、患者と家族の面会謝絶などの医療情勢の中で、逆にこの曖昧さが暖かく溶け込むように感じられたのが評価されたと思いました。

・特別賞のNo.15「建築幸福論」。卒業論文と掛け合わせて、「建築とは美しく幸せな空間」というテーマを根気よく時間を掛けて丁寧に考察しているところが好感を呼び評価されました。

また、この様な手法の計画では最終形が独りよがりになりがちですが、このスタディからは特異な形態の建築が創出されたわけでなく、美しさ、幸福は様々な空間にも有ると導き出し、その空間を造り出すのが建築家であること、その建築家を自身が目指すとしていることが良かったと思います。

出展作品全体を見て感じたことは、ここ数年、積極的に集まって暮らす集住形態やシュアハウスのような提案が多かったが、今年は集住を目的とした提案はほぼありませんでした。コロナ禍で集まることが嫌われた所以でしょうか、私見としてこういう社会情勢だからこそ挑戦して欲しかったです。

その中でNo.3「雪と共に住まう」。雪の暗いイメージを逆転させた発想と自然にできる雪の造形は静かで美しく素敵です。しかし雪に埋もれた建築の中での温かみのある暮らしがイメージできず、「住まう」が感じられなかったことが残念でした。

また、地域を俯瞰し、ランドスケープやまちづくりの手法を使い、数カ所に建築やフォリーなどを置くことで、街や地域全体を活性化させたり、再生させたりするなどのプログラムが多くありました。これらの場合、分散した各建築群に強い主張や感性が感じられない計画や、ネットワークによるもたらされる効果に魅力がないと、プログラム自体が躍動感や面白さが伝わらない提案になりかねないと改めて感じました。

・No.7「商店街における公共的余白」。各建築が精巧で見応えがあり卒業制作として素晴らしい作品でした。しかしその4つの建築が商店街にもたらす変化や効果が今一つ感じられなかったように思います。

紙面上一部作品の評価を割愛しますが、今回も4年生の作品に混じって、短大2校から出展がありました。瑞々しい感性や建築を学ぶことへの謙虚さ感じる素敵な作品だったことを書き添えておきます。

最後に、この審査結果はこの審査メンバーだからゆえに出てきた評価であり、メンバーが変わればその結果も変わっていたことでしょう。また、作品表現やプレゼンのちょっとした差や好みによって審査に影響が出ます。ですから、入賞した学生もできなかった学生も、今一度各々の作品を見つめ直して再度検討することを望みます。そして各大学を代表してこの学生賞に出展できたことに誇りをもち、次のステージで飛躍して行くことを願っています。

特別審査員 感想コメント

特別審査員
Arch.
Antonio Esposito

今年度の千葉県建築学生賞のエントリー作品は、主に景観を大切にしながら環境を改善し、治癒を促す可能性に焦点をあてたプロジェクトが多く見受けられました。それは私にとって文化的な喜ばしい確認でした。

私たち建築家とそれに続く世代の建築家は、半世紀以上にわたって経済と機能優先の功利主義的な理論に問題意識をもってきました。

そのような中で、学生達のプロジェクトが持っていると思われる目標は、単に誤った偶像を破壊し既存に復元することではなく、健全な文化が成立していた秩序の痕跡を探し、形と形の物語として読まれ解釈することでしょう。

そして、これらの痕跡について保存、消去、上書きにより、持続可能なエッセイを提供します。

戦後の資源の浪費を認め、あらゆる角度で現代建築への道を切り開くことができれば、提供されるシーンの文化的な秩序をプロジェクトで追求することを示すことができると思います。

この点で、建築分野は地球の未来に関し多くの知恵を提供することができます。

学生達は、環境を統治することが必要な今、可能性のある世界を見いだそうとしています。

これが、建築学生賞のスタッフと私が若い建築家へのエールに取り組む理由です。

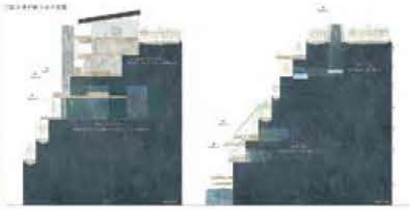
未来の建築家と我々は、風景を感じ、それは小さいかもしれませんが、世話をします。

建築家は、この職業の市民的責任を保ち、コミュニティに代わって変革の美的品質を保証します。

建築家・ボローニャ大学教授
アントニオ・エスポジト
Arch. Antonio Esposito

アントニオ・エスポジト先生からのコメント（原文）をP.54に掲載しています。

No.16



作品詳細

作品紹介はこちら

最優秀賞　JIA出展作品

前橋　宏美 まえばし　ひろみ
東京理科大学 理工学部 建築学科

いしにとどまり、いしをかんじるわいなりー

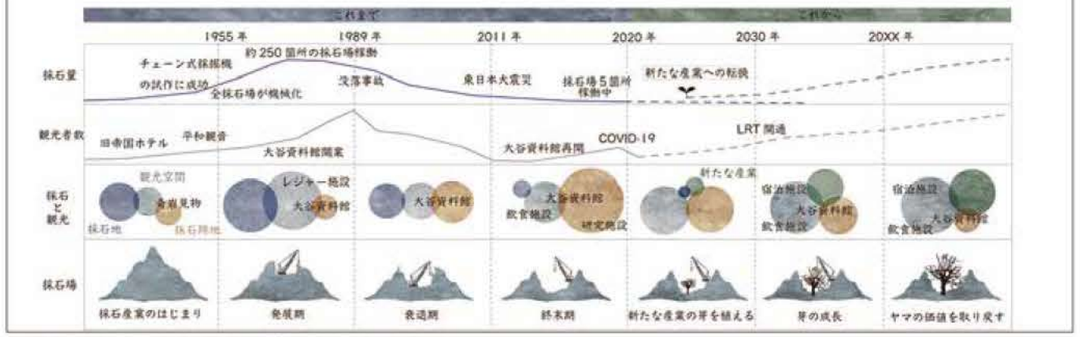
石にトドマリ、石を感じるワイナリー

対象地は、「大谷石」の産地、宇都宮市大谷地域。

膨大な凝灰岩の地層に恵まれる大谷町には、200カ所もの採石場跡地が放置され、荒廃の一途をたどっている。この地が死を迎える前に、新たな産業の芽としてワイナリーを計画する。大谷石の食物の貯蔵に適する性能よりワインを熟成し、石の力・歴史を感じることのできる空間を創出する。この点の建築が大谷に放置され取り残された地を1つまた1つと葡萄畑へと変化させ、まちを繋ぐきっかけとなることで、大谷にかつての賑わいを取り戻す。

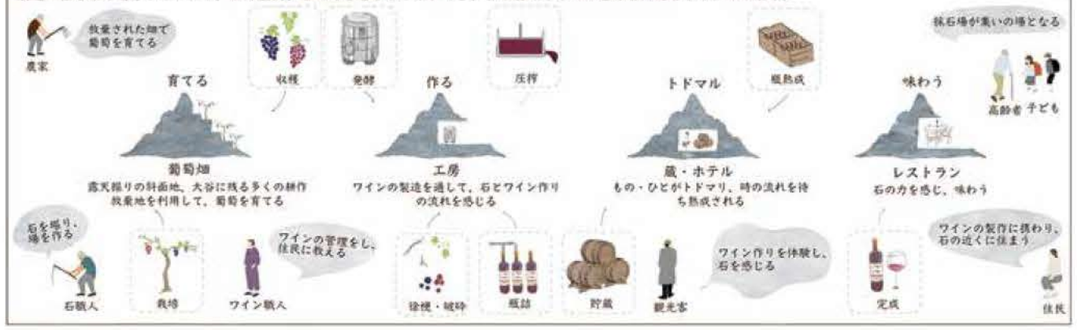
01. 採石産業の歴史とこれからの大谷

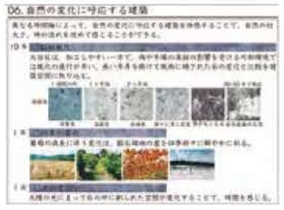
対象地は、「大谷石」の産地、宇都宮市大谷地域。膨大な凝灰岩の地層に恵まれる大谷町には、200カ所もの採石場跡地が放置され、荒廃の一途をたどっている。この地が死を迎える前に、新たな産業の芽を植えることでかつてのヤマの価値を取り戻す。



02. 石にトドマリ、石を感じるワイナリーの提案

採石場の食物の貯蔵・熟成に適する特性、採光が豊富な斜面地の特性より、ワイナリーを提案する。今まで立ち入り禁止区域として、まちと隔離されていた採石場をワイナリーを通して、まちに開く事で、衰退する採石産業に取り残された石職人と住民、観光客が関わりを持つ場を作る。石を掘ることで生まれる空間に、ワインの製造工程を埋め込むことにより、石の歴史、石の力を感じることができ、石のまちとしての魅力を訴えるきっかけとなる。





審査員　河原 泰

これまでも多くの提案があった大谷石の採石場。この提案は、切り立つ岩肌の圧倒的な存在感をそのまま見せるのではなく、軽い屋根やぶどう棚、テラスを加えて親和的な全く異なる景観に変えてしまったことに新鮮な魅力を感じた。それを緑豊かな模型とその写真で瞬時に伝えるプレゼンテーションが殊更秀逸であった。もちろん、洞窟のような採石孔を活かしたレストランやスパ、宿泊施設は、自然光が岩肌を柔らかく照らし出し、得も言われぬ美しい空間となることも容易に想像できる。実現したら名所になるであろうことを予感させ、行ってみたいと思わせる建築の提案で、文句なく今年度の最優秀であった。

No.2

作品詳細

作品紹介はこちら

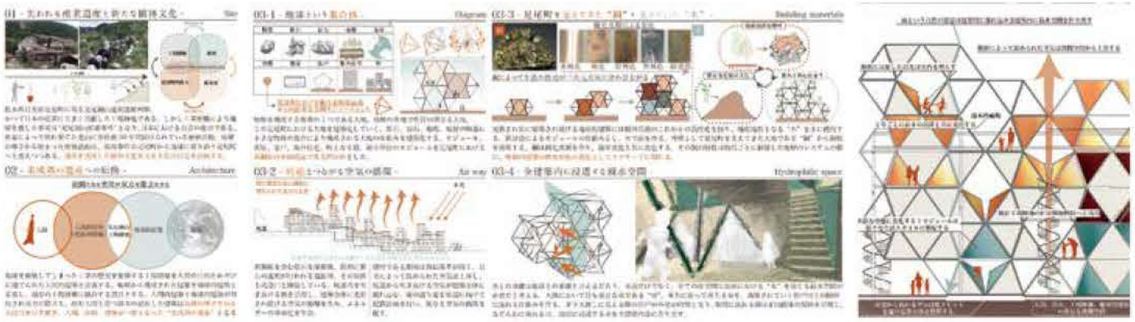
優秀賞　JIA出展作品

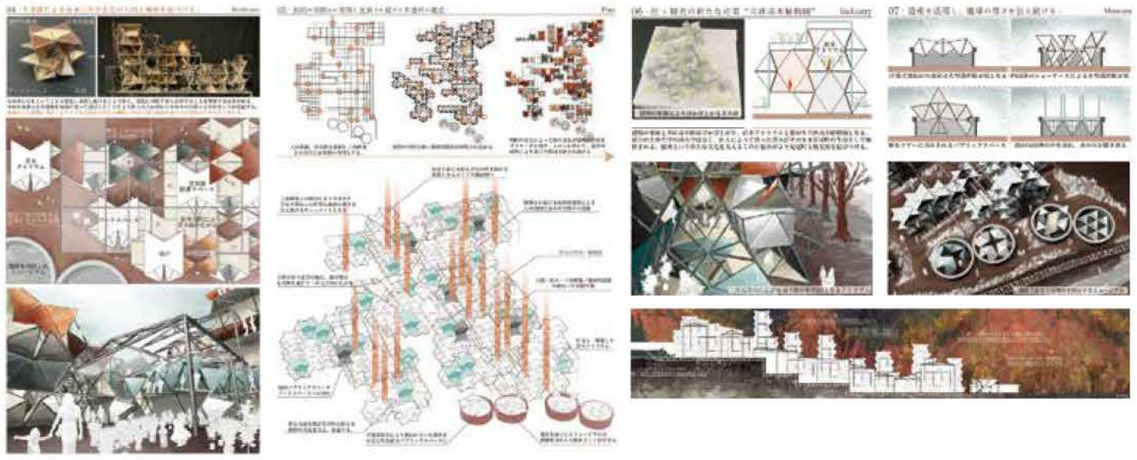
山戸　善伸 やまと　よしのぶ
日本大学 理工学部 海洋建築工学科

みせいじゅくのいさん

未成熟の遺産　住×遺産×植林×観光の交わる足尾銅山転換計画

“足尾銅山通洞選鉱所跡”解体され始めているこの建築物は
産業の革新と共に人間が破壊という行為で地球と繋がった結節点である。
公害という歴史によって、隔たれた人間と地球が寄り添い始め様々な取り組みが行われている今
“人間と地球の狭間に存在する建築”はどう在るべきだろうか。
生命体の狭間の建築にも生命を灯し、共に更新し
人間の地球を理解する気持ちを創出することで人間と地球を近づける存在だと考える
地球の尊さを伝える遺産の役目を引き継ぎ、
負の遺産から人と地球と建築が更新し続ける未成熟の遺産へと転換する





審査員　河内 一泰

足尾銅山という負の遺産を、人と地球と建築が更新し続ける場へと転換するプロジェクトである。山肌にまとわりつく菌糸のような全体像はトラスフレームと銅板が反復する単位からできている。解体途中の工場跡地や山の地形に柔軟に関わりながら変化成長する構造形式はこの建築のテーマと一致しており、好感を持った。増殖する４面体のフレームは外形が自由な形式であり、間仕切り壁と外壁の差がない壁面は空間の単位を柔らかく連続させ、内外が混じっているように見せている。提案しているように雨や風、木といった建築の外部環境さえも積極的に取り込む建築は実現したら面白いと思うが、住宅や図書スペースなど、プログラムに設定されている様々な機能が成立するために建物はシェルターの役割も担う必要があるはずである。内外の空気はどこで仕切られているのか？雨天時や寒い季節の動線計画はどうなっているのかなどの疑問が残った。環境と建築が混ざり合う建築のかたちとして可能性を感じたが、構造形式だけでなく、プランニングや内外の仕切り方まで具体的に見えてくると、より強い提案になったと思う。

No.6

作品詳細

優秀賞　JIA出展作品

内野　佳音 うちの　かのん
日本大学 生産工学部 建築工学科

作品紹介はこちら

つづくふとうめいなものがたり

綴く不透明の物語

コロナ禍で研究を行うにあたり、様々な書籍を読み建築の歴史に触れ、『建築論』や『ウィトルウィウス建築書』、『エウパリノス』、『粗い石』を精読し、建築空間がどう認識され、どのような信念のもとで構築されてきたのかを学んだ。卒業論文で分析対象とした『粗い石』から、ル・トロネ修道院を建造する起源となった同じ司教区のフロリエル修道院が、廃墟として忘れられたまま存在していることに注目した。

西洋の修道院の回廊には別世界が広がっている。回廊を半透明にし、フロリエル修道院と共にある自然現象を包み込み、廃墟のもつ何かをあるがままに存続させまもる。修道院の回廊という世界をとおして、ロマネスク建築を現代の建築へと変換し，建築空間と深く向き合う体験を提供する。

審査員　牧野嶋 彩子

フランスにある「ルトロネ修道院」を建造する起源となった同じ司教区の廃墟となった「フロリエル修道院」が敷地である。廃墟を囲むように、半透明の回廊を作り、自然現象をも包みこみ、廃墟のもつ何かをあるがままに存続させまもるための建築。その提案である。

提案はとても力強い空間となっている。

12という宗教的な数字を空間に起こし込み、12メートル立方体を元に数パターンの平面、断面構成を作り出しその連続で回廊を構築している。

回廊は廃墟の周り、そして自然の地形に埋もれるように配置がされている。

様々な空間の抜け、視線の繋がり、空間の交差、視線の重なりなど、空間構成がとても豊かで、この機能が定められていない空間に、ただ佇んで、空間を体験してみたいという思いにかられる建築であると思う。

ただ、この建築は海辺や都心の中でもなりたつ建築であると思う。

なぜこの場所にあるのか？廃墟の修道院から何を得て、何を求めるのか、この場所にあるべき時間軸の説明がもっとできていればより深みのある物語になったようにも思う。

また空間に機能を持たせると建築の力強さが減ってしまう気もするが、修道院との関係性が見えるような機能があると、この場所にある意味が際立ったのかもしれない。

No.10

作品詳細

特別賞

下田　ことみ しもだ　ことみ
日本大学 生産工学部 建築工学科

よはくりんぐ

ヨハクリング 余白から鼓動した本当にいい病院のあり方

私の祖父は、病室で家族と会えない孤独な時間を過ごしている時が何より怖いと言い、最後まで入院生活を拒んでいた。そんな祖父の一言から、本当に良い病院とは何なのか、私が定義する2つをもとに病院とまちの新しい関わりを提案する。

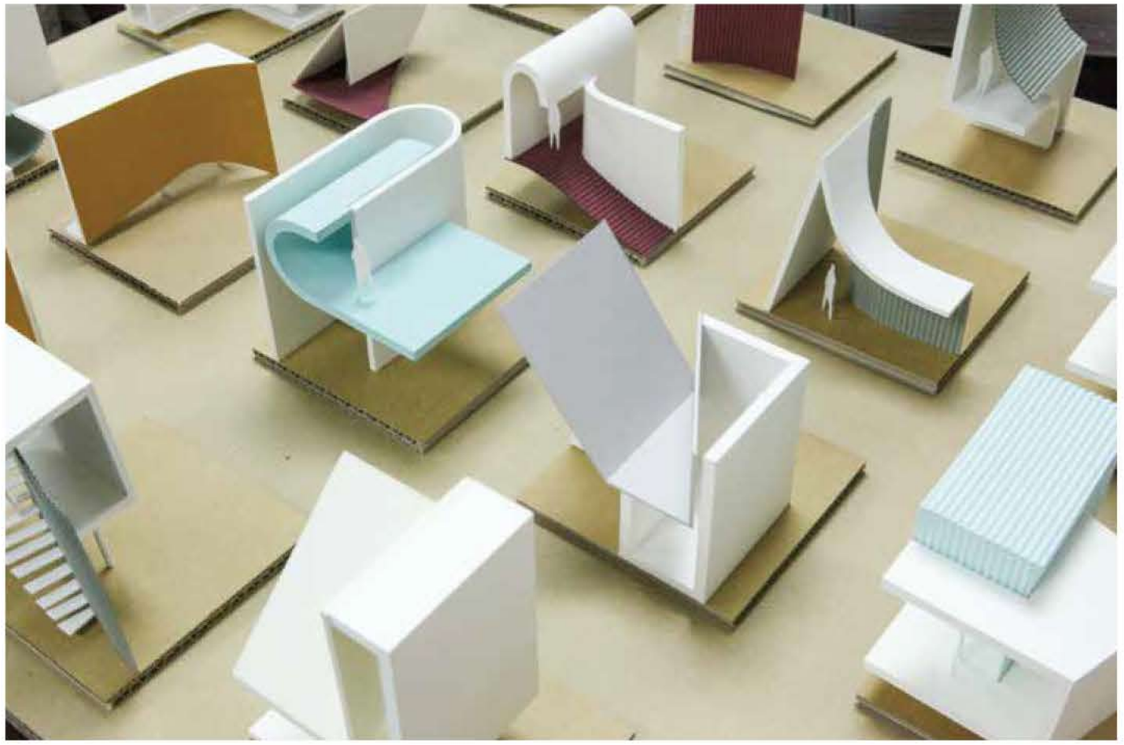
今回、駒込病院からホスピスを主とした30%の機能に加え、使われ方が曖昧である緩衝材(=ガゼボ)を街の余白に重ね合わせる。これより、病室からガゼボを眺めると、自分自身の思い出を想起させ、孤独を感じない場となる。ただの通過点であった余白が再び動き出し、人々の活動が生まれ、いつの間にか患者の活力となる。

作品紹介はこちら

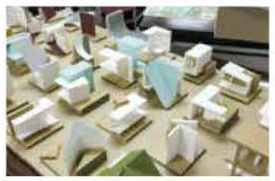
審査員 河原 泰

医療施設の見直しはタイムリーな社会的テーマである。少子高齢化における病床の在り方について、今回のパンデミックは示唆をもたらした。誰もが入院できるわけではなく、看護の度合いにより、療養施設を分けざるを得ない状況がやってくる。ヨハクリングは医療従事者と患者の双方の視点に立ち、空き家や既存住宅にガゼボを加えるという小さな操作により、まち全体で今後の医療体制をつくっていこうという大胆な提案である。病院は人の命にかかわる建物であるがゆえに、多くの制約があり、固定化されたビルディングタイプの中で考えられがちであるが、訪問診療なども進展してきている昨今では、このようなドラスティックな転換があってもよいのではと気付かされた。

No.15



作品詳細



特別賞

森田　雅大 もりた　まさひろ
千葉大学 工学部 総合工学科 建築学コース

作品紹介はこちら

けんちくびこうろん

建築美幸論

この1年間は、社会が大きく変容した時期であり、また、大学4年生という学生と社会人の橋渡しのような重要な時期でありました。そのような状況から、私が将来設計を行っていく際の基盤となるような、理念や手法を構築させることを目的として、この卒業設計を行いました。

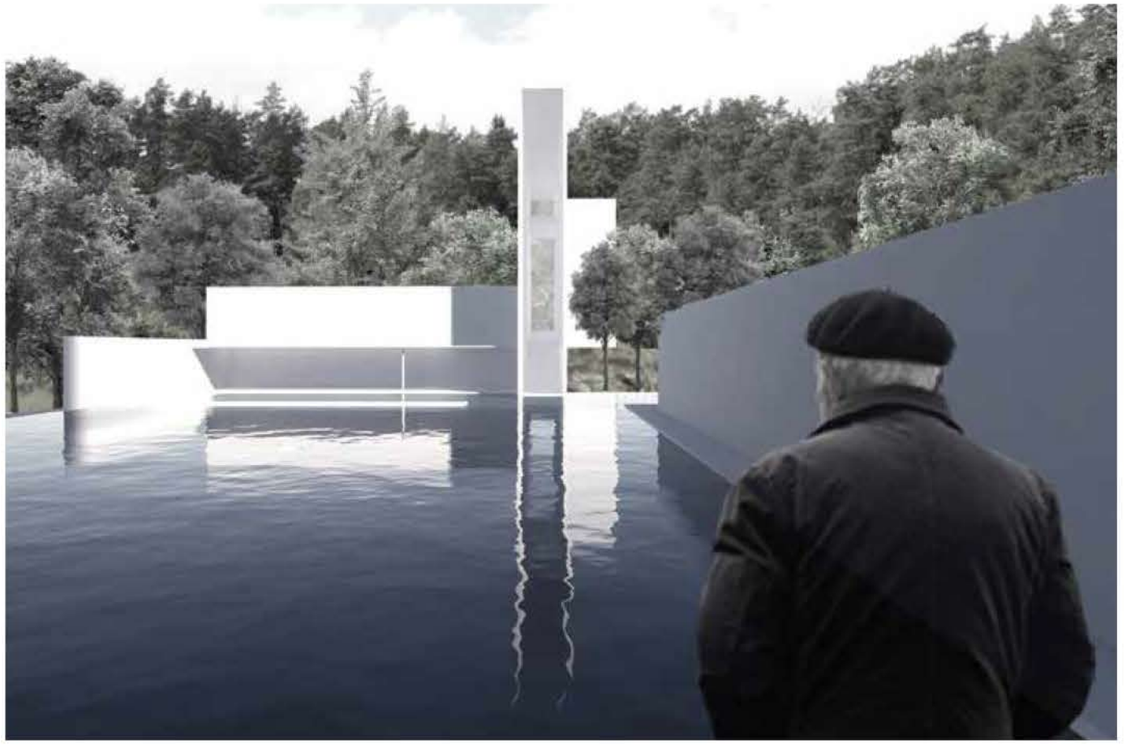
そのために、時代を超えて普遍性があり、単純ながら非常に奥深いテーマ、そして、建築の意味や目的を考えた時に、根源的な要素のように思われる、「美しさと幸せ」を思考の中心に置いた。

そこで、今回は「建築とは美しく幸せな空間」と仮定をした上で、建築についての再考を試みました。

審査員　河内 一泰

人が幸せになれる建築をつくりたい、それが美しくあれば尚良い。これは誰もが賛成する建築の目指すべき方向ではないだろうか。この作品は抽象論に陥る事なく、その事に真摯に取り組んだ模型のスタディとその考察が評価された。特に「美幸は個別の形の中にある」という発見は大きい。建築は純粋芸術ではなく、機能や敷地環境といった個別の条件が重なり合った中に美幸を伴って現れるという。つまり建築は完結した自立的な存在ではないという事だ。スタディの段階ではエレメントを中心にしていたので、建築が完結せずに環境と形が表裏一体で混じっていて面白かったが、最終案は具体的なプロジェクトとしてリアリティーを高めていった結果、建築として完結しすぎてしまったように感じた。この事は一般的な建築の中でも同じ問題が起こり得る。コンセプト段階では魅力的に見えたものが、具体化する過程でシェルターとしての強度が増し、環境や人よりも建築が強くなってしまう事が多い。建築が環境と人の居場所の間に補完的に存在するという事が可能なのか?「人ー建築ー環境」の均衡が必要なのだと改めて考えさせられた。

No.18



作品詳細

特別賞

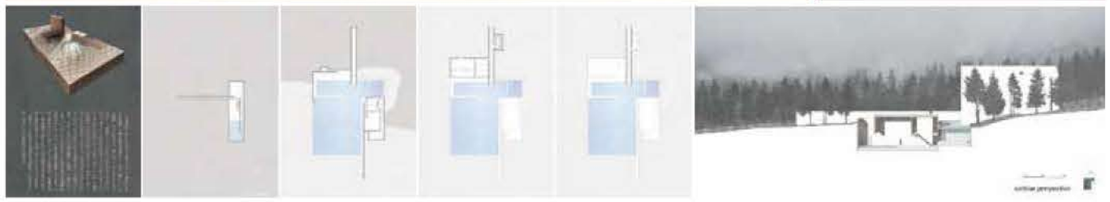
馬渕　望夢 まぶち　のぞむ
千葉大学 工学部 総合工学科 建築学コース

作品紹介はこちら

きょこうとげんじつのはざまで

虚構と現実の狭間で

情報や物で溢れかえった現代社会。便利なサービスやテクノロジーの発展により、一時的に人々の心は満たされるが、永続的に人々の心は満たされていない。そもそも幸せや不幸といった概念はその人の心のありようでしか測れないからである。どんなに地位や名声があろうがその人自身が幸せと思っていなければ、その人は幸せでないのである。凄まじい速度で変化していく社会で自分と見つめ直す時間すら取れず、人々の心は疲弊してしまっていないだろうか。そんな人々を建築が〈救う〉ことは可能だろうか。本設計は樹海で自殺志願者がとある建築と出会うことで心が浄化され、生の活力を取り戻す物語である。



審査員　河内 一泰

青木ヶ原樹海に迷い込んだ自殺者がその空間を体験し浄化される建築である。「建築が人を救う事ができるか?」という問いは興味深い。確かに実際に建築を訪れて、空間のプロポーションや光、切り取られた風景などに感動した経験がある。提出された建築は、水盤やレベル差による明暗の設定、プロポーションなどきれいにまとめられているが、既視感がある。建築の既成概念を壊すような形や風景がつくられていたらもっと評価できたと思う。もう一つ違和感を感じたのは、作者の浄化のストーリーに従ってシーンが並べられ、受け手の感情が設定されている点である。抑圧された体験を経てクライマックスに向かっていく空間の構成は、決められた曲を聞かされているようで不自由さを感じた。クラッシック音楽では、そういった全員が高揚へ向かう構造を極めていった末にナチスによって国民の扇動に利用された過去があり、その結果、聞き手の解釈の自由さを広げる現代音楽が生まれたという歴史がある。建築も同じように近代の計画的な建物を経て、現代では体験する人の自由さを広げる方へ向かっているのではないだろうか。

No.14

作品詳細

JSCA賞

柿添　蓮 かきぞえ　れん
千葉大学 工学部 総合工学科 都市環境システムコース

作品紹介はこちら

えどかおるきょうか

江戸薫る橋架 点在する文化財を繋ぐ後継者養成施設

平成27年より日本遺産への認定が開始された。これにより従来の「点」として保存重視であった文化財行政に比べ、「面」として活用重視による地域の活性化を図った。

しかし、開始から6年経った現在、認知度不足や人材不足といった課題が挙げられる。そこで、人が集い文化を継承する空間の整備を計画する。

対象地は、千葉県佐倉市。城下町として栄えた街並みは急勾配の地形が形成され過度な垂直移動が不可欠となり問題視されている。この地に回遊性の向上を目的とした動線の確保と地域住民と深く関わりあう伝統技術の後継者養成施設を提案する。

地域住民の地元への愛着が醸成され後世も愛される場所となると同時に、日本遺産の振興が全国に広がっていく。

審査員　向後 勝弘

日本遺産に認定された佐倉市に点在する文化財を橋架によって繋ぐという大胆な発想、そこに集う人たちのための屋根とそれに続くかやぶき屋根職人の養成施設の組合せも興味深いの組み合わせだ。それを実現するための橋架の曲線とそこから伸びる木造屋根架構の造形も幾何学的美しさを感じる。こんな建築ができたら、佐倉の歴史へ興味を持つ人や、それに触れて茅職人も増えて行くだろう。また、立面図のスケールを見ると橋梁のスパンが50m以上あるように見えるが、曲率を持つ梁背1mのガーター橋を架けるためには構造家とのコラボレーションを楽しめそうだ。一方、橋梁に付随する建物群のプランについてはおざなりにされているように感じる。後継者養成施設実習棟の実習室は茅で屋根を葺く実習を行うには天井が低く、部屋の広さが狭いのではないか。また、体験学習施設兼宿泊施設のプランを見ると、宿泊する対象者の想定や、体験学習室の広さから、訪れる人が何を体験するのかが明確ではないように思われる。そこが改善されれば全体としてより完成度の高い作品になるだろう。

No.3

作品詳細

なの花賞

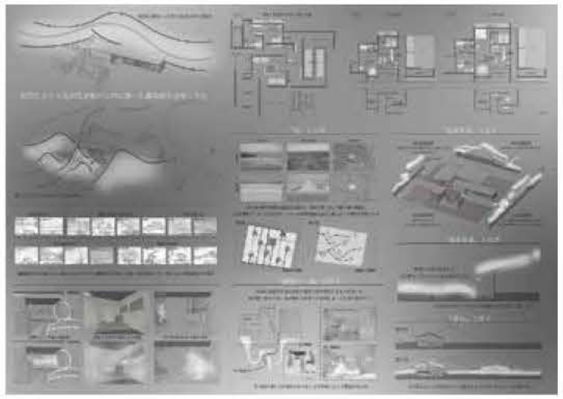
佐藤　伶香 さとう　れいか
千葉工業大学 創造工学部 建築学科

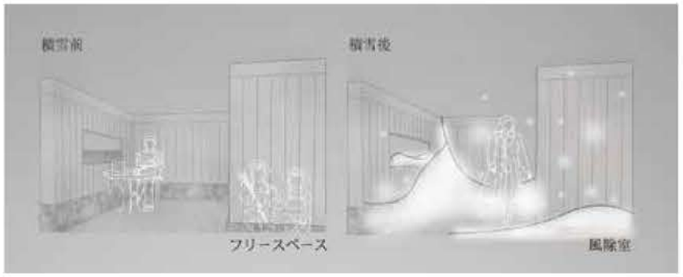
作品紹介はこちら

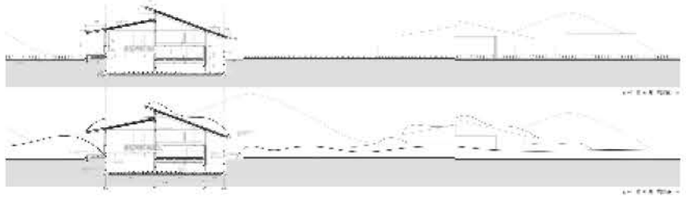
ゆきとともにすまう

雪とともに住まう 「溶かす」から「と化す」へ

雪国の暮らしに対する現在の建築の答えは雪を「溶かす」こと。雪害の解消のみに焦点があたり、忘れられつつある雪の可能性を活かし、雪を「と化す」建築を提案します。敷地は山形県庄内。近年の少子高齢化に伴い農家が減少し、使用されなくなった田んぼは荒地として放置されている。この一連の問題に対し、庄内では移住者支援活動を促進している。そこで、使用されなくなった田んぼを敷地とし、移住体験施設の提案を行う。そこでは、1人では農業を継続できない敷地の所有者が管理人となり、移住希望者達に農業を教えながら生活をする。雪を様々なものへ「と化す」建築により、他の地域とは異なる新たな魅力が生まれ、庄内への移住者が増えることを期待する。







審査員　櫻井 彩

「雪」という、一見ネガテイブに捉えがちな環境要素を使ってまちに新たな価値を付加させ、暮らしを豊かにする提案と理解しました。

規模が大きな建築で「雪」を受け止めようとすると屋根や風景といった大きな話で「雪」を捉えがちです。

そこまでポジティブに捉えているようには感じない一方で、本提案の解決方法「と化す」という手法は「雪」という存在をポジティブに捉えており、その提案に「雪」との接し方に新らしさを感じました。

「と化す」の手法は暮らしに寄り添う身体的なスケール感でのスタディのもと行われており、またその小さな「と化す」手法で集まったそれぞれの建築が全体性を持って田んぼの風景をつくってくれることを想像できました。

建築と雪の関わりを提案しているとともに、人と雪の関係性ももっと近づけるような操作がたくさん見られた。

この建築のポイントはもう一つあると思っていて、「雪」の季節だけに提案の良さを感じることができるのではなく、「雪」が降らない季節の過ごし方も同時に考えている点です。

「雪」の降る季節の生活と「雪」の降らない季節の生活が対になっていることで実現している建築だということです。

審査中の質疑でも聞かせてもらった、集落という単位でこの計画をする(集まって住む)良さをもう少し聞けるとよかったなと思います。

私としては、前段であったように田んぼを管理できなくなった管理人と、新しく住まう移住者の関係性が、この手法を使ったことにより関係性をもって暮らしていくことが実現するのではないかと勝手に想像していました。

No.I

作品詳細

奨励賞

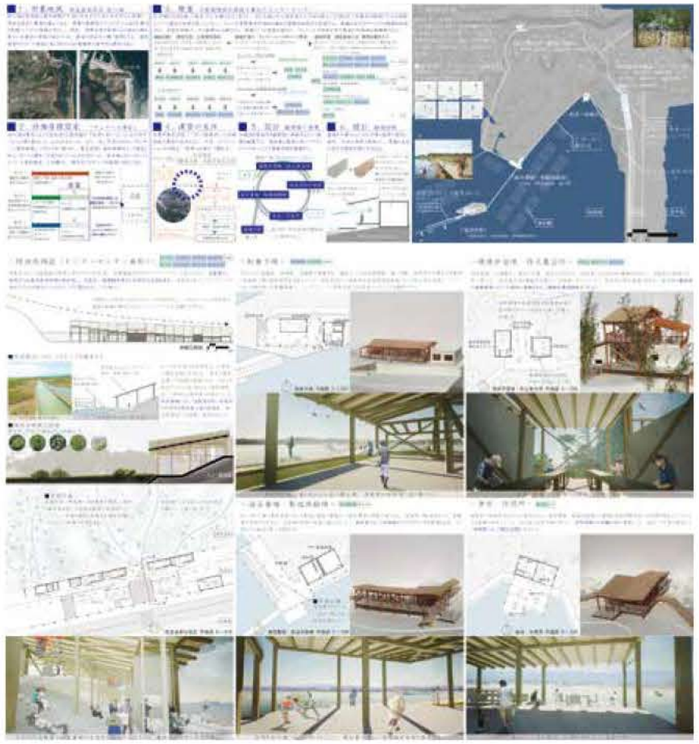
渡邉　大祐 わたなべ　だいすけ
千葉大学 工学部 総合工学科都市環境システムコース

作品紹介はこちら

さとうらさいこうけいかく

里浦再興計画

松川浦という人の生活と深く結びつき、その中で貴重な環境を維持してきた汽水湖がある。現在、東日本大震災と復旧・復興工事の影響によりその姿を大きく変え、人々の生活からの乖離やこれまで類を見ない生態系の変動が起きている。そこで、復興期間終了と同時に被災地における新たな目標を立てた第2の計画として、人々との距離を再び近づける環境学習の場、災害環境モニタリングの場としてこの里浦を再興する。細かなモニタリングは私たちに多くのことを教えてくれる。学習・レクリエーションの機会を生み出し、エリアをマネジメントする次世代が育成される人々の生活との新たな接点を設計し、美しい松川浦を後世に引き継いでいく。

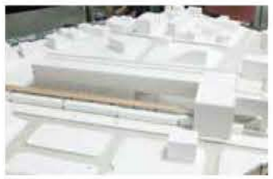


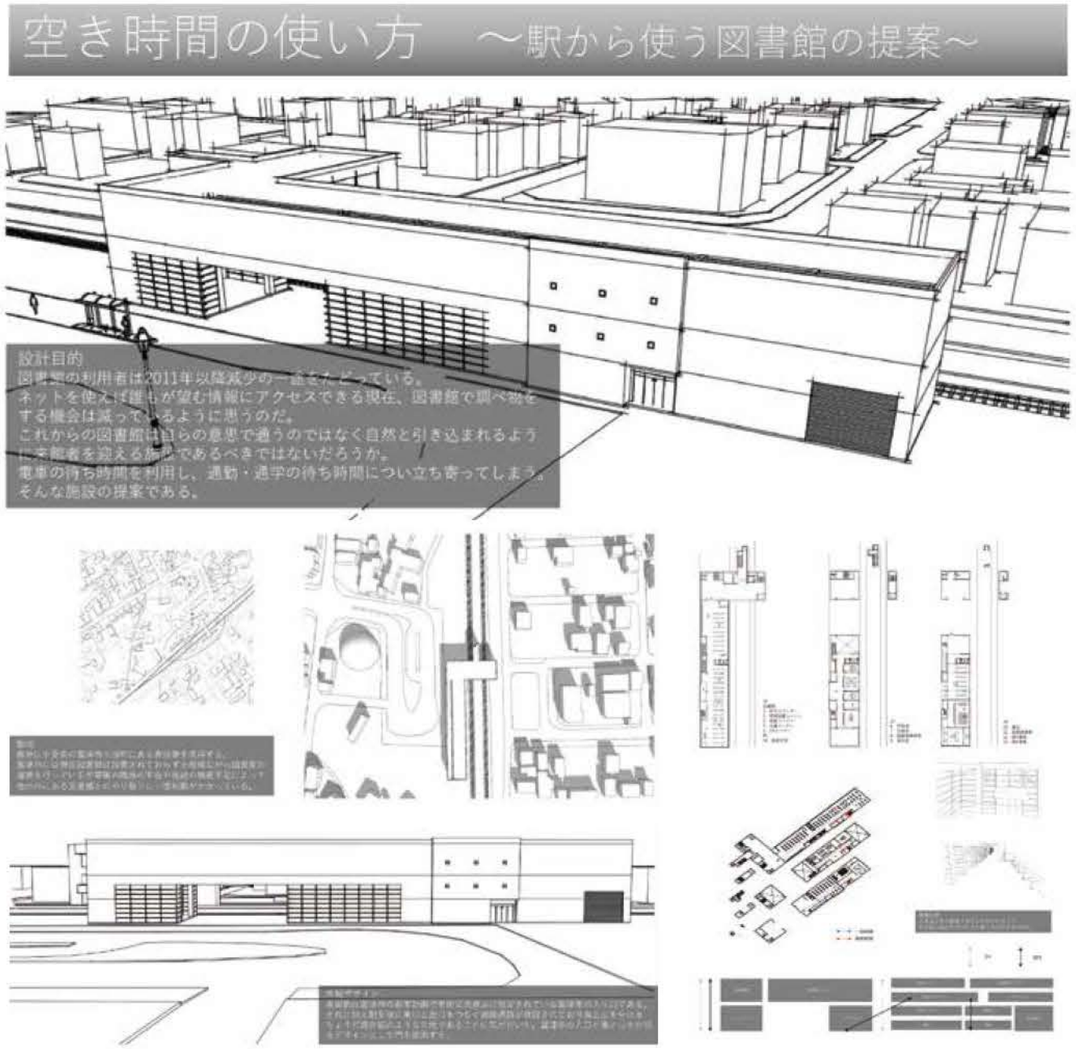
審査員　向後 勝弘

東北大震災の復旧復興計画は様々な問題を含んでいる。災害を防止するという観点が強調され、大きな防波堤を作ったり、居住地域を高台にしたりといったことが、盛んに行われている。しかしそこには、提案にあるような、そこで生活をする人にとって何が大事かというところが抜け落ちており、そこにテーマを当てた作品には敬意を表する。ここでは生態系の回復を図る為にラムサール条約登録を目指すという目標設定を行い、そのために必要な建築群を提案し、それを回遊式に配置している。来訪者は観察道を周遊して全ての施設を体験することができる様になっており、自然を感じながら様々な体験をするという提案は良い面もあるが、この全体計画ではそれぞれの建物が分散しすぎている様に感じる。全ての施設を体験して、初めて設計者の意図が完結するのであれば、時間や体力がない（ハンディキャップのある）来訪者、あるいは特定の体験を目的とした来訪にはつらいかもしれない。ただ私は無機質な、海と人々を分断する防波堤を建物の一部に取り込んで活用する計画に復興の希望を感じる。

No.4

作品詳細





奨励賞

岩梨　竜也　いわなし　たつや
千葉職業能力開発短期大学校 住居環境科

作品紹介はこちら

あきじかんのつかいかた

空き時間の使い方　駅から使う図書館の提案

千葉県の南部地域には未だ図書館が少なく、設置されていない地域も見受けられる。

しかし、設置を望む住民も少なからず存在することから南部への設置の提案を行うこととした。

図書館の利用者は2011年以降減少の一途をたどっている。

ネットを使えば誰もが望む情報にアクセスできる現在、図書館で調べ物をする機会は減っているように思うのだ。

これからの図書館は自らの意思で通うのではなく自然と引き込まれるように来館者を迎える施設であるべきではないだろうか。

電車の待ち時間を利用し、通勤・通学の待ち時間につい立ち寄ってしまう。そんな施設の提案である。

審査員　向後 勝弘

最近は図書館の利用が減っているのだろう。図書館の利用促進として、誰もが利用する駅に併設するというアイデアは面白い発想だ。駅にはよく書店が併設されているのも移動の時間に本を読んだり電車を待つ時間に本を読むからだろう。そして、図書館に引き込まれる同線として、前に進むだけで引き込まれるというのは合理性があると思う。そして建物内を平面では直線で進む動線、断面ではエレベーターと階段による動線を提案しているが、建物の目的として駅を訪れた人が、自然に図書館に引き込まれる様な動線だとするならばすれば、この動線の表現は少し弱いように感じる。駅を訪れた人が、思わず図書館に引き込まれてしまうようなアイデアがあればより建物の目的にかなうのではないか。建物デザインに海と山を分けるゲートとしての門をあしらい、直線的なデザインには好感が持てるし、実現性の高いデザインだ。テーマを決め、問題点を洗い出し、それに対応する建物を提案するという設計姿勢は今後も持ち続けるとして、デザインについてはもう少し遊び心を持つことでより飛躍できるのでは。

No.5

作品詳細

奨励賞

高砂 昂大 たかすな こうだい
東京電機大学 未来科学部 建築学科

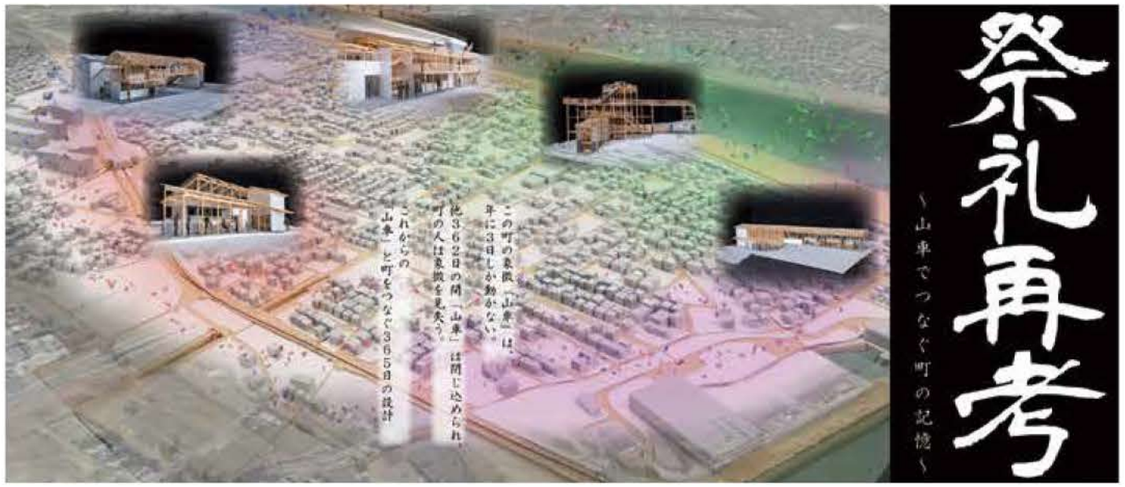
作品紹介はこちら

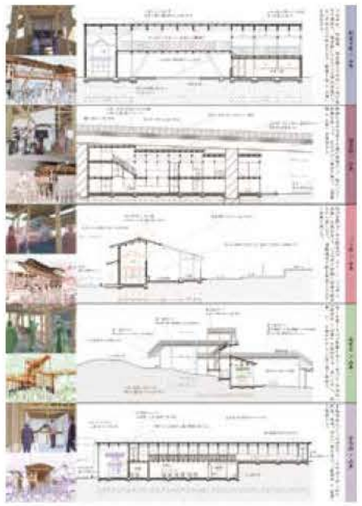
さいれいさいこう

祭礼再考 山車でつなぐ町の記憶

活気を失い、人間関係が希薄になっていくこの町で、300年続く伝統の祭はどうあるべきか。これからの町と祭の関わりかたを考えることで、町に、祭に活気を取り戻す。

昔は「ハレとケ」の生活サイクルの中で共同体統合の儀礼として大きな役割を担っていた祭。しかし最近の祭は、娯楽性や神聖さが薄れ、毎年やっているからと意味を忘れてしまった。帰属意識のない寂しくなっていくこの町の日常に足りないのは、求心力のある町の象徴。何にもなかった日常に「山車」をおくことで、象徴を共通認識することができる。その象徴となった「山車」が祭で動き出したとき町はまた一つになる。



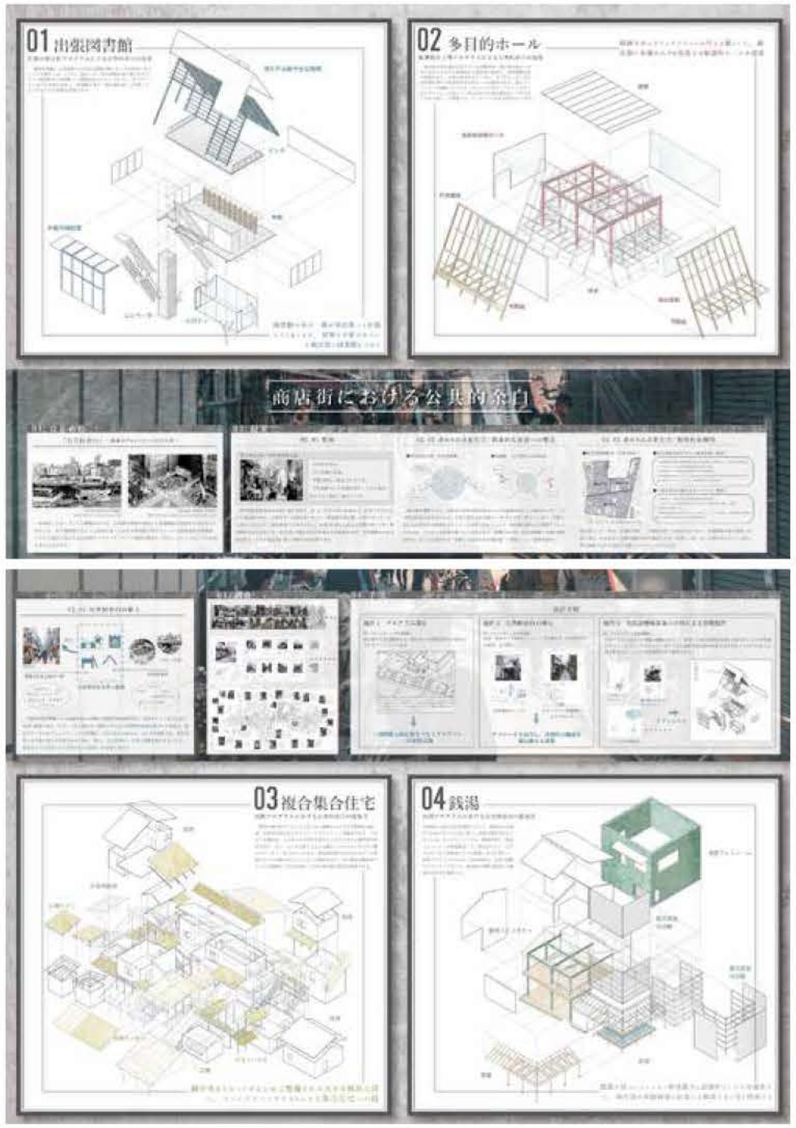


審査員 河原 泰

衰退しつつある町において、地域に点在する山車と絡めて、地元愛と活気を小さな建築によって取り戻そうというアイデアは、自治体や地域の人々の賛同を集めることができるであろう。このアイデアが説得力を持って実現に至るかどうかは、アウトプットする建物が本当に地元愛の醸成と地域の活性化につながるかということにかかってくる。山車小屋と絡めたプログラムは、ハレとは対比的な地味な日常的用途を設定しているがゆえに、建築の空間や構造で頑張る必要がある。「ここにしかない」という特色を持たせ、地域の人が建っている姿を見てみたいと思わせるような建築提案になれば、布佐の町にこの建築群が実現するかもしれない。

No.7

作品詳細



奨励賞

竹村　寿樹 たけむら　としき
千葉工業大学 創造工学部 建築学科

作品紹介はこちら

しょうてんがいにおけるこうきょうてきよはく

商店街における公共的余白

「MIYASHITA PARK」に代表される近年の商業施設。今まで相容れなかった「商業」と「公共」の融合は新たな消費体験を生み出し、その公共性は「都市に挿入された余白」とも捉えることができる。

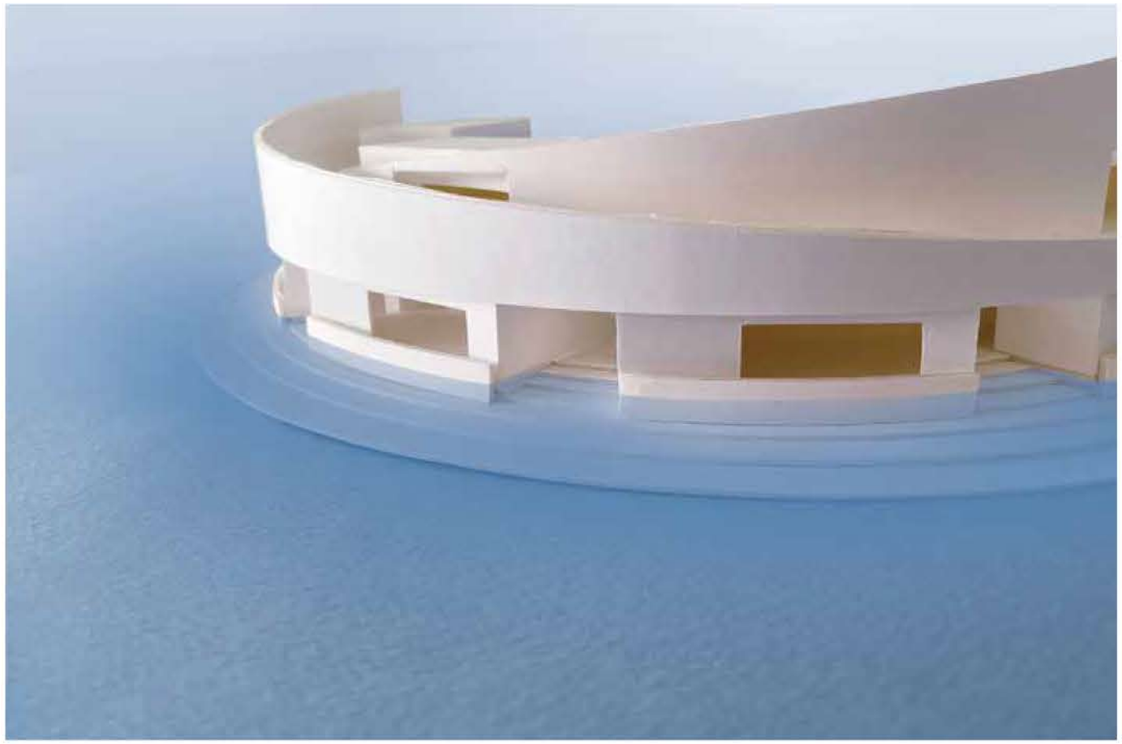
本設計はそんな「余白としての公共性」、すなわち「公共的余白」の可能性に着目した都市の代謝手法の提案であり、その実践として「防災的な懸念」、及び「将来的衰退への懸念」から、冗長性のある商店街への変化が求められる砂町銀座商店街に、「公共的余白」を持つ4つの建築の挿入を行った。

これは既存のローカルな集積、すなわち「商店街の付加価値」を白紙に戻す既存の都市整備とは対極をなす、都市への新しい介入手法となる。

審査員　関谷 和則

東京都江東区の砂町銀座商店街に面する敷地に、"公共的余白"を担うプログラムをもった4つの余白（建物）を計画し、地域の交流と商店街の活性化を目指した意欲作である。自らの地元である商店街をこよなく愛し、ひとびとの繋がりを生み出すことに対し、真摯に取組んでいる。精度の高い模型から読み取れる、緻密にデザインされた"ハード"としての"建築"の提案にとどまらず、持続的に賑わいを生み出す"仕掛け"としての"ソフト＝プログラム"の提案をきちんと行っていることが、社会性を引き出し、リアリティある高い説得力を有する作品へとすることに成功している。本作品のような地道な取組みこそ、地域の暮らしを豊かにしていく、大きな"きっかけ"につながると私も信じている。

No.8



作品詳細

奨励賞

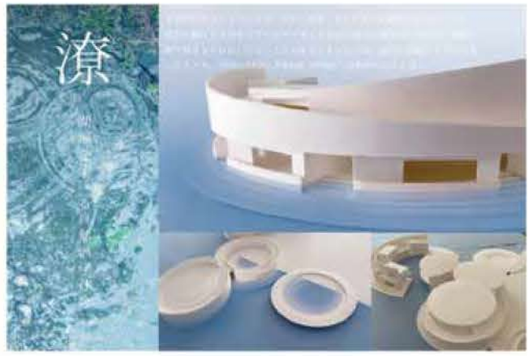
田村　千空 たむら ちひろ
日本大学 短期大学部・建築 生活デザイン学科

作品紹介はこちら

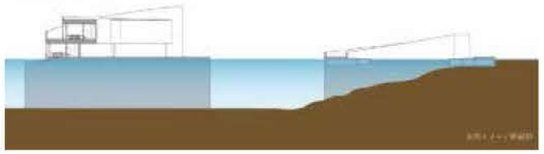
にはたずみ

潦 湖面を統べる自然の学び舎

湖面をすべる自然の学び舎. 地表を流れ、溜った雨水を意味する古語「潦（にはたずみ）」は、庭あるいは俄（にわ）かに夕立（たづ） 水から転じたとされる。建築とは、自然からの支配を人々が忘れるための手段に過ぎない。潦の様態のように「人が自然に支配されるための建築」をつくることで、自然と建築との調和をもたせないだろうか。ここは、建築のワークショップを軸としたセミナーハウスである。その一部は、河口湖畔をめぐるプロムナードと連続している。季節ごとの湖面の水位変動によって、プロムナードとワークショップの場が変わりゆく潦となり、湖面を統べる場となる。自然から支配された建築における人々の思索こそが、自然と建築の新たな調和を見いだしていく。

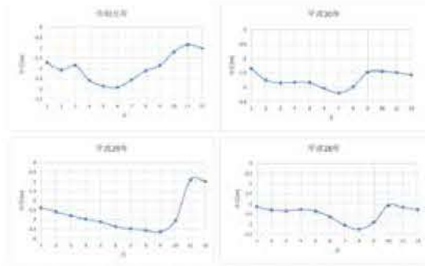


■設計趣旨



■敷地について

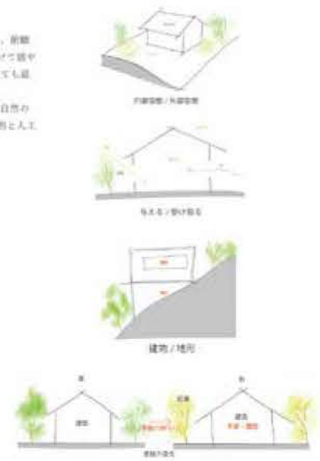
■水面



■断面計画

■〈自然〉と〈建築〉の構成パターン

■対立する〈建築〉と〈自然〉



審査員 牧野嶋 彩子

山梨県の川口湖畔にあるプロムナードの一部である奥河口湖さくらの里公園を敷地として建築のワークショップを軸としたセミナーハウスの計画である。

提案者は、河口湖の水面水位の記録データを元に、水面の上昇下降という自然現象を生かしながら、本質的に異なる対立する自然と建築の調和や、建物の構成について正面から向きあいながら、豊かな空間を持つ建築を提案している。

建物形状は水面に雨が落ちた際にできる水の波紋が広がるような美しい形状を作り出しており、その波紋がいくつも重なり合うような配棟計画となっているのが印象的である。

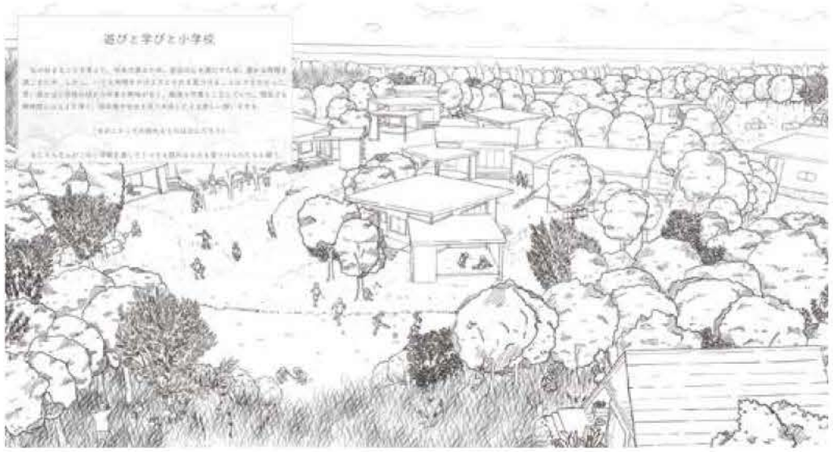
河口湖の親水広場にこの建物ができ、時間や季節の移ろいに合わせて建築の見せる表情が、時には調和し、時には対立する、可変性のある空間構成になる提案がなされており、劇的な変化が見える建築として魅力ある空間となっている。

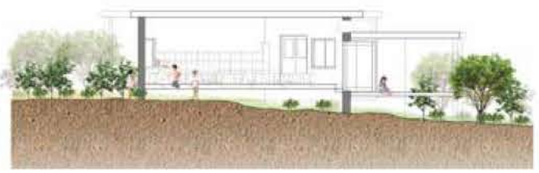
建築のワークショップをする際にこのような自然と融合した、自然と向き合えるセミナーハウスを使用できれば、利用者の創造力がより膨らむような提案である。

一点、建築の内部空間の設計がもう少し細かくなされていたらもっと建築の精度があがり、よりよい提案となったと思う。

No.9

作品詳細





奨励賞

清水　龍太 しみず　りゅうた
千葉工業大学・創造工学部・デザイン科学科

作品紹介はこちら

あそびとまなびとしょうがっこう

遊びと学びと小学校

子どもたちの学びに「生きる力」を育むことが求められる現代において、教科書で学べることには限界があり、実際に手で触れないことにはわからないことがいくつもある。そこで遊びと学びをシームレスに捉えた小学校の提案をする。

この小学校は切り倒した木に座って授業を受け、斜面で転ばないよう鬼ごっこをしたり、ちょっと高い木まで登ってみることで身体成長を促したり、段ボールで自分の居場所を作ったりすることを自分ごととして体験することで様々な感情や問題解決能力を育む環境が存在している。

審査員　櫻井 彩

現在の自分の話から入り、そこから提案は小学校の設計という時間軸の提案だったというストーリーがとても印象的です。

SNSなどが発達してオンライン上で学習を済ませることができるくらいインターネットが発達している現代において、もっと身体的な身体で覚える学びみたいなものがテーマだろうか。実際にこの提案をききながら、わたしも自分の幼少期を思い出すと当時は、「遊び」＝「学び」だとは感じていなかったが、現代ではその様子が近所で見られることが少なくなったことをふと思わせる提案内容でした。

本提案では、家の前の道路にチョークで絵を描くや、遊んでいたら違うクラスの子が通って一緒に遊び始めるなど、学校以外でおこる近所での何気ない学びを、小学校の空間で実現しようと試みるものでした。

管理の面や、自然を人工的に作ることに関しては少し疑問点は残るが、机に向かい、教科書を開いているだけでは学べないことが日常的に小学校で起こっていると思うとすごく魅力的に感じます。

実際にこのような小学校に提案者が通っていたとしたら今は何に興味を持つことになっていたのだろうか。

No.II

作品詳細

奨励賞

作品紹介はこちら

結城　和佳奈 ゆうき　わかな
東京理科大学・理工学部・建築学科

ならてぃぶをつむぐねっとわーく

ナラティブを紡ぐネットワーク

「モノ」には作られた場所や人の履歴＝「モノがたり」が内在される。

昨今のコロナ過により人が移動しなくても「モノ」やサービスが手に入る時代へ急激に近づいている。我々がまちなかを移動する意義とはなんなのだろう。

そのような未来を前にした今、リアル空間では値段のつかない価値＝モノがたりが重要視される。

本提案では、地方の文化の消失や産業の衰退といった課題を伝統的な河川舟運に着目し、以前の河川舟運で人・モノを運ぶだけであった舟を「運ぶ」+「出会う」場、舟の停留所を人・モノの溜まる場として提案する。

また、産地問屋の物流を表出させ、人の流れと同時に行い、現代の越前市における生活・産業文化の継承を可能にする手法をここに提案し、豊かな暮らしを紡ぐネットワークを再編する。

審査員　関谷 和則

福井県越前市の伝統工芸である刃物づくりに焦点をあて、刃物づくりのプロセスやモノづくりのナラティブ（物語性）を“まちのなかに視覚化する”というとてもユニークな視点から構築された「まちおこし」の提案である。ナラティブを視覚化する手法として、まちに舟による河川水運を張り巡らせ、河川に開いた既存の空き家を刃物工房などに再生活用している。車道を河川に戻すといった大掛かりな取組みは現実的ではない、ともいえるが、常識にとらわれない取組みだからこそ他の都市との差別化を強化しているといえる。提案の刃物づくりのまちがあったら、私はぜひ行ってみたいし、多くの人びとを惹きつけるポテンシャルある地域再生手法であると思う。まちを構成するひとつ一つの建物のデザインのあり様や、刃物づくりのプログラムを強化するためのプランのあり方など、踏み込んだ検討結果があったら、もっと強い提案に至ることができたのではないだろうか。公開審査を糧にさらに作品を強化していただきたい。

No.12

作品詳細

奨励賞

佐藤　駿介　さとう　しゅんすけ
日本大学　理工学部　海洋建築工学科

作品紹介はこちら

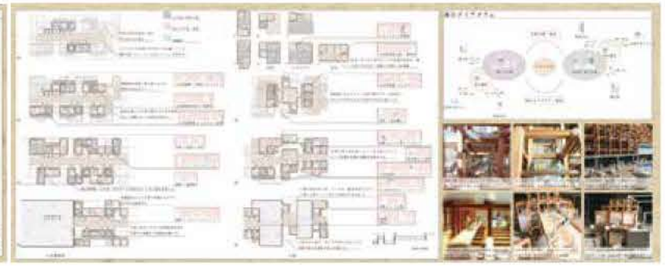
なりわいにやどる

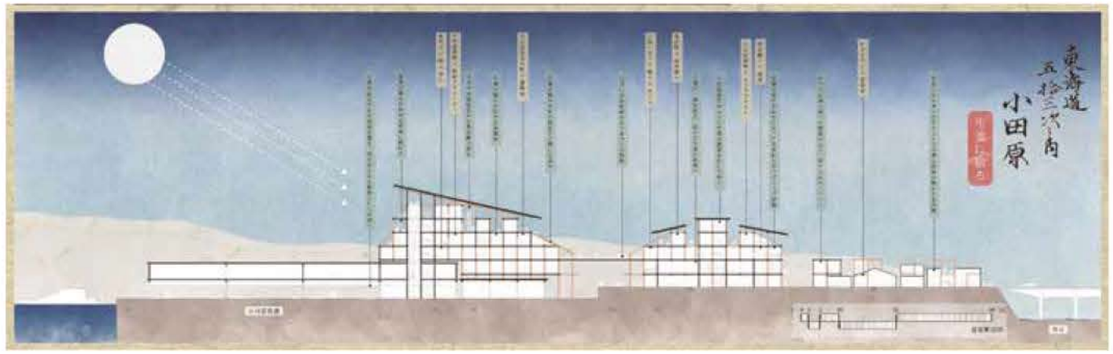
生業に宿る　宿場の構図と生業の関係性による小田原の再編

小田原と聞いて何を思い浮かべるだろうか。かつて東海道五十三次の宿場町「小田原宿」として随一の規模を誇っていたと現在の廃れた姿から想像する人は僅かである。建築として形は残ってはいないが、小田原宿で誕生した生業は現在まで引き継がれ残っている。

しかし、市内に分散し、人の流れが生まれない今、生業が消えるのも時間の問題である。

小田原に残る生業と共に新たな生業や要素を集め、かつての宿場町の構図を回帰する受け皿となる建築を提案し、生業の連鎖と新たな人の流れを生むことで小田原を再編していく。





審査員　関谷 和則

敷地は、箱根のふもと小田原漁港である。江戸時代に宿場町として栄えた小田原に連綿と続く伝統工芸や、漁業のまちならではのかまぼこ加工品などの“生業（なりわい）の連鎖”の視覚化を目指した、地域文化を継承・強化する故郷愛あふれる意欲作である。食・もの・暮らしをテーマに、観光客にとどまらず地元の方々の利用も考えられている。建物は、3600㎜の木軸構造のグリッドで構成し、象徴的なガラス屋根の高さを小田原城天守閣に揃えるなど、現代と江戸の文化の懸け橋となるデザインが意識的に展開されている。また、“生業”のプロセスを来場者に体感してもらうために、生産・加工・消費のゾーニングからプランを構成するなどの“仕掛け”もいろいろと考えられていて、面白い。集約型の施設だからこそ、来場者が効率的に小田原を知り楽しむことができるといったメリットを引き出すことは、その通りなのだが、“まちの魅力を知る楽しさ”を提供する建築のあり方としては、様々なデザインアプローチが考えられ、もっと作品を強化することができたのではと感じられた。公開審査を糧にさらに作品を強化していただきたい。

No.13

作品詳細

奨励賞

能浦　未帆 のうら みほ
東京電機大学 未来科学部 建築学科

作品紹介はこちら

でとっくすあいらんど

Detox Island

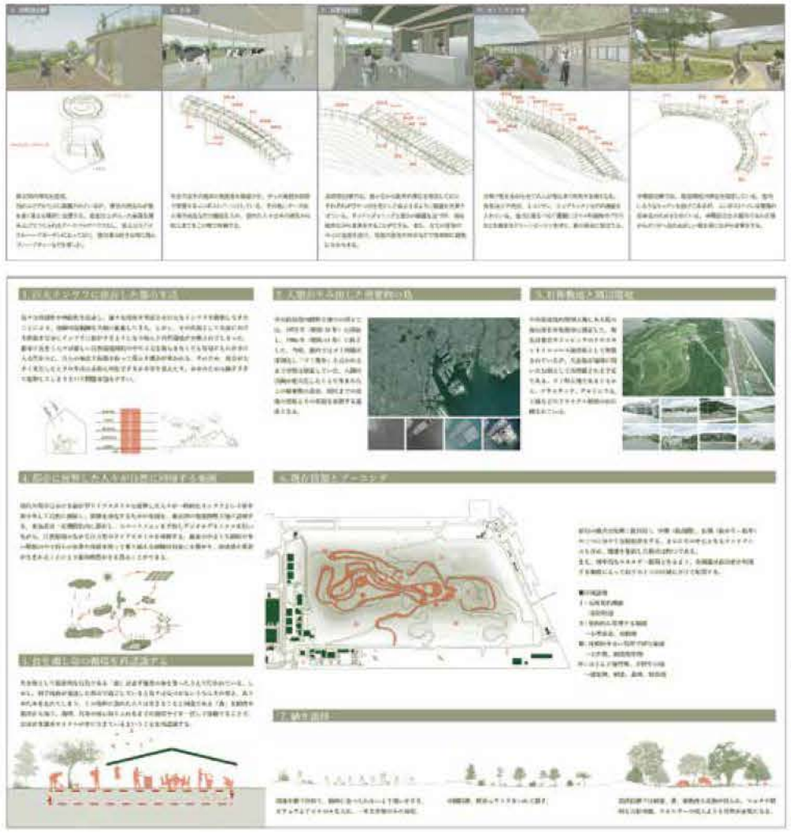
我々は科学技術の発展させ巨大なインフラを構築することにより、活動可能範囲を大幅に拡張してきた。

しかし、その代償としてインフラに依存した生活を送るようになり、個人と自然環境が分断されてしまった。

本提案では、一定期間滞在することで自給自足生活を体験することの出来る楽園を、東京湾に浮かぶ廃棄物の島に構想した。

この地に訪れた人々は、生き物として根源的な行為である「食」の過程を動植物の栽培、飼育から一貫して体験することで、自身が生態系サイクルの中に生きているということを再認識する。

そして、都市の生活では享受できない命の手触りを肌で感じ、この場所が人々の豊かに暮らす精神を得るはじめの一歩となる。



審査員　牧野嶋 彩子

東京湾に浮かぶ廃棄物で埋め立てた島。この島にある中央防波堤内側埋立地にある海の森公園を対象敷地とした提案である。廃棄物の島の中に、人々が自然に回帰し、精神を浄化するための楽園を作る計画であり、宿泊施設を中心に滞在者が食の過程を動植物の栽培、飼育を体験する事で生態系サイクルの中に生きている事を再確認、体験する施設である。

現代社会に対して問題提起とその解決を試みる意義のある提案である。現在では携帯電話、インターネットなどの普及、いわゆる通信というインフラの整備により利便性は高まったが世の中の情報や交流スピードは目まぐるしく進みすぎているようにも思う。

利便性があがった反面、人間同士の関わりが希薄になり、犯罪が起こり、都市のあり方も変わってしまった。

そのような社会に疲れた人間が、この施設に滞在して自分を見つめ直し、心や体の休息をえる。現代社会において、必要な施設だと思われるし、十分実現可能な計画であろう。

だからこそ、この施設に滞在する人と働く人との関わりその運営システムまでデザインをして落とし込んだ提案があると、よりよい提案となったと思う。

No.17

作品詳細

奨励賞

白石　なつみ しらいし　なつみ
千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科

作品紹介はこちら

「ひとり」になりに つどうばしょ

「ひとり」になりに 集う場所

様々な「ひとり空間」のある図書館

コロナ禍による在宅時間の増加により、私的空間である住まいにも人が望む様々な「ひとり」が十分にないことが顕在化した。一人静かに集中する空間、オンライン会議で声を出す空間、人の気配を感じながらアイディアを巡らす空間など、人々の多様な「ひとり空間」へのニーズに応えるのが本提案「ヒトリト」である。「ヒトリト」では、その時の気分、ニーズに応じて好きな「ひとり」の居場所を選べる。また、それぞれ異なる段階の「ひとり空間」の間を行き来できるため、より自由な「ひとり」を満喫できる。本提案によって自分のペースで、好みの「ひとり」になれる居場所を提供する“公共空間”が実現する。

審査員　櫻井 彩

新型コロナウイルス渦ならではの問題提起だなと感じ提案を聞きました。

新型コロナウイルスの蔓延により、私たちの生活や時間の使い方は一変したように感じます。

会社ではリモートワーク推奨されたり、仕事をしているトータルの時間は変わらないけれど自宅で時間を過ごすことも増えました。

ひとりの時間は様々な気分の時に必要とされていると再認識したと同時にそれがコロナ渦の中で顕在化されたのだと感じます。

不足している一人空間のイメージから、その例は日常生活に寄り添っているものでしたが、そのひとり時間を受け止める場所を、まちのなかの図書館という公共的な場所に持ち出す案でした。

一見居住空間に問題意識があるのかと感じましたが、もっと目線がまちの場所の使い方の話に展開していたのがとてもいいと思いました。

ひとりで過ごす分類わけがとてもユーモアのある、「ひっそり」「たっぷり」「ゆったり」というような、独自の分析言語で空間を構成しているのが印象的だった一方で、その分類同士の関係性がどのようになっているか、その一人空間が集合することでの良さをもう少言及してもらえると、公共空間として新しいあり方にももっとつながったかもしれないとも思いました。

第33回千葉県建築学生賞

審査経過

中野　正也（なかの まさや）
審査コーディネーター

第33回千葉県建築学生賞の審査は、全18作品で競われた。所属の大学名は伏せた上で、審査員及び出展学生による対話や討議も交えつつできるだけ公正でかつ丁寧な審査を心がけた。

また、昨年同様にYouTubeでのLIVE配信を行いつつ、これまでの公開審査の形式を可能な限り踏襲して行った。

【プレゼンテーション及び質疑応答】

全18作品の出展学生が説明5分及び質疑応答4分の持ち時間で各自プレゼンをおこなった。

【一次審査：18作品から半数の8作品を選出】

まず最初にプレゼン及び質疑応答や会場の展示作品などの印象から各審査員による投票を行った。

（審査員は推し作品に2点、その他の作品に1点の配分で投票）

投票結果を踏まえ、審査員によるディスカッション・推し作品の（応援）説明などを行い最終的に以下の8作品を二次審査に進めることとなった。

一次審査通過作品

No.2	「未成熟の遺産」	山戸善伸	得票数：12
No.3	「雪と共に住まう」	佐藤怜香	得票数：12
No.5	「祭礼再考」	高砂昂大	得票数：11
No.6	「綴く半透明の物語」	内野佳音	得票数：12
No.7	「商店街における公共的余白」	竹村寿樹	得票数：13
No.10	「ヨハクリンク」	下田ことみ	得票数：11
No.14	「江戸薫る橋架」	柿添蓮	得票数：11
No.16	「石にトドマリ石を感じるワイナリー」	前橋宏美	得票数：14

【二次審査：一次審査を通過した8作品から3～5作品程度を選出】

各審査委員から投票した作品の評価する点と逆に投票していない作品に対する評価していない点などを解説・発言してもらった。

それによって各審査員の視点や評価のポイントが明確化し、また多少の票の揺れ動きが生じ、各審査員が推しの3作品に対し10点の持ち点を自由配分で投じる投票を行った。（点数配分はひと作品に最大で7点とする）

進行役としては、この段階で半数程度に絞り込みたかったが票がまとまらず以下の6作品と微減で三次審査に進むことになった。

二次審査通過作品

No.2	「未成熟の遺産」	山戸善伸	得票数：11
No.6	「綴く半透明の物語」	内野佳音	得票数：15
No.7	「商店街における公共的余白」	竹村寿樹	得票数：5
No.10	「ヨハクリンク」	下田ことみ	得票数：10
No.14	「江戸薫る橋架」	柿添蓮	得票数：6
No.16	「石にトドマリ石を感じるワイナリー」	前橋宏美	得票数：23

【三次審査：最優秀・優秀の3作品を選出】

各審査員が最優秀に相応しいと思う1つの作品に3点、優秀作品2作品に1点ずつを投票を行った。投票の結果、以下の得票数となった。

No.2	向後委員	得票数：6
No.6	関谷委員、牧野島委員	得票数：7
No.10	櫻井委員	得票数：5
No.14	河内委員	得票数4
No.16	飯沼委員長、河原副委員長	得票数：11

この時点で審査員全員の評価と照らし合わし、No.16の作品を最優秀賞とすることを、審査員の合意で決定した。

続いて優秀賞2作品の選定については、ふたりの審査員が推し作品として評価をしているNo.6の作品をまず決定した。もうひと作品について、No.2とNo.10とで、全審査員による挙手投票にて決めることとし、No.2の作品を優秀賞のふた作品目に決定した。

最優秀賞

No.16「石にトドマリ石を感じるワイナリー」　前橋宏美

優秀賞

No.2	「未成熟の遺産」	山戸善伸
No.6	「綴く半透明の物語」	内野佳音

【特別賞の選出】

特別賞については、全作品を対象とし、審査員の個人的な好み評価も加え各審査員2点と1点の優劣を付けてふた作品への投票を行った。

投票の結果、以下のふた作品を選出した。

特別賞

No.10	「ヨハクリンク」	下田ことみ　得票数：6
No.15	「建築美幸論」	森田雅大　得票数：6

【JIA全国大会出展3作品の選出】

最優秀賞及び優秀賞の上位3作品をJIA全国大会出展とすることを審査員全員で協議し決定した。

なお、その他の賞として以下の作品を選出した。

JSCA賞：日本建築構造技術者協会から出向の審査員が選定する賞
No.14「江戸薫る橋架」　柿添蓮

特別審査員賞：特別審査員のアントニオ・エスポジトが選定する賞
No.18「虚構と現実の狭間で」　馬渕望夢

～開催を終えて～

このようなコロナ感染未終息状況下の中、実行委員及びさまざまな関係者の皆様にご尽力いただいて実現した審査会である。感謝したい。

関係者以外のギャラリーを入れて行うことはできない為、冒頭に触れたように昨年度に初めて行ったYouTubeでのLIVE配信を今年も実施し、できるだけ多くの方に見ていただける公開審査という形式を踏襲した。

各大学ではオンライン中心の卒業設計講評会となっている中、今この状況下でできる、我々の精一杯の審査会をやったつもりである。悔しく納得できない思いをした学生もいるかと思うが、この千葉県建築学生賞に参加できたこと、そのことを誇りに今後の進路の中でまた大きく羽ばたいてほしいと切に願います。

第33回千葉県建築学生賞

審査経過

第33回千葉県建築学生賞展		一次審査																				二次審査									
		投票1-1										投票1-2										投票2-1									
		飯沼	河原	河内	関谷	牧野嶋	向後	櫻井	アントニオ	集計	結果	飯沼	河原	河内	関谷	牧野嶋	向後	櫻井	アントニオ	集計	結果	飯沼	河原	河内	関谷	牧野嶋	向後	櫻井	アントニオ	集計	結果
01	里浦再興計画	2	1	1	1	2	2	1		10	-	1	0	0	0	0	1	0		2	-										
02	未成熟の遺産 住×遺産×植林×観光の交わる足尾銅山転換計画	2	1	2	2	2	2	1		12	通過										通過	3		3		1	4			11	通過
03	雪とともに住まう -「溶かす」から「と化す」へ-	2	2	1	1	2	2	2		12	通過										通過									0	-
04	空き時間の使い方 ～駅から使う図書館の提案～	1	1	1	1	1	1	1		7	-	0	0	0	0	0	0	0		0	-										
05	祭礼再考 山車でつなぐ町の記憶	2	2	1	1	1	2	2		11	-	1	1	0	0	1	1	1		5	通過									0	-
06	綴く半透明の物語	1	2	2	2	2	2	1		12	通過										通過		2		6	7				15	通過
07	商店街における公共的余白	2	2	2	2	2	1	2		13	通過										通過				3			2		5	通過
08	潦 湖面を眺べる自然の学び舎	2	1	1	1	1	1	1		8	-	0	0	0	0	0	0	0		0	-										
09	遊びと学びと小学校	1	1	1	1	1	1	1		7	-	0	0	0	0	0	0	0		0	-										
10	ヨハクリング 余白から鼓動した本当にいい病院のあり方	2	2	2	1	1	1	2		11	-	1	1	1	1	0	0	1		5	通過	1	6					3		10	通過
11	ナラティブを紡ぐネットワーク	1	2	1	2	2	1	2		11	-	0	1	0	1	1	0	0		3	-										
12	生業に宿る 宿場の構図と生業の関係性による小田原の再編	1	1	1	2	1	2	1		9	-	0	0	0	0	0	0	0		0	-										
13	Detox Island	1	1	2	1	1	1	2		9	-	0	0	0	0	0	0	0		0	-										
14	江戸薫る橋架 点在する文化財を繋ぐ後継者養成施設	1	1	2	1	2	2	2		11	-	0	0	1	0	1	1	1		4	通過			4			2			6	通過
15	建築美幸論	1	2	2	2	1	1	1		10	-	0	0	1	1	0	0	0		2	-										
16	石にトドマリ、石を感じるワイナリー	2	2	2	2	2	2	2		14	通過										通過	6	2	3	1	2	4	5		23	通過
17	「ひとり」になりに 集う場所 様々な「ひとり空間」のある図書館	1	1	1	1	1	1	1		7	-	0	0	0	0	0	0	0		0	-										
18	虚構と現実の狭間で	1	1	1	2	1	1	1		8	-	0	0	0	0	0	0	0		0	-										

三次審査《最優秀賞×1 / 優秀賞×2》											特別賞審査《特別賞×2》																						受賞	JIA出展作品
投票-3-1											投票-特-1										投票-特-2													
飯沼	河原	河内	関谷	牧野嶋	向後	櫻井	アントニオ	集計	挙手	結果	飯沼	河原	河内	関谷	牧野嶋	向後	櫻井	アントニオ	集計	判断	飯沼	河原	河内	関谷	牧野嶋	向後	櫻井	アントニオ	集計	加点	結果		
																					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
1		1		1	3			6		優秀賞											-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	優秀賞	○
																					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	なの花賞	
																					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
																					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	1		3	3				7		優秀賞											-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	優秀賞	○
			1			1		2		-	1			2					3		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
																					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
																					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
1	1					3		5		-	2	2					2		6		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	特別賞	
																					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
																					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
																	1		1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		3			1			4		-			1		2				3		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	JSCA賞	
												1	2	1	1	1			6		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	特別賞	
3	3	1	1	1	1	1	1	11		最優秀賞											-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	最優秀賞	○
																					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
																2			2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	特別審査委員賞	

第33回千葉県建築学生賞

建築学生賞 高校生の部

No.1

岩瀬　優斗 いわせ　ゆうと
千葉県立東総工業高等学校 建設科

芸術のスイッチON

地域の人が作品を出品してほしいという思いと、ゆっくり作品を鑑賞してもらうための傾斜のデザインからテーマにもあるONのデザインにした。

展示室に順路は設けず好きなように鑑賞できる。

時計回り反時計回りで上り下りが逆になり下りでは気づかなかったことが上りになることで新しい発見があればと思い設計した。

2階展示室は地域の人が自由に作品を展示できるフリースペースになっていて自分の芸術を発信できる場となっている。

No.2

遠藤　陵吾 えんどう　りょうご
千葉県立東総工業高等学校　建設科

町と調和する美術

この美術館は商店街側を現代的な作りに、公園側は曲線を使い自然的な雰囲気にすることで、美術館に二つの表情を作った。

また、屋上を緑化することで近年問題視されているヒートアイランド現象対策や、公園との繋がりを持たせた。

公園側には2階に通じるスロープを設け、公園の利用者が身近に感じられる作りにした。

商店街側の方の企画展示室には足元に窓を設け、美術品を傷めずに自然採光を取り入れられる作りにした。

No.3

樺　瑛士 かば　えいし
千葉県立東総工業高等学校 建設科

みんなで創る美術館

テーマが「町に立つ小さな美術館」なので私は、地域の人々が交流できる美術館にしたいと思いました。

展示する作品は、地域の有名な画家の絵や、地域の人々の交流として絵を描くイベントを行い、その作品を展示する美術館にしたいと考えました。

街並みを眺めて絵を描けるテラスを設け、建物の構造を東面に開くような構造にすることで地域の人々に興味を持ってもらい、気軽に訪れて交流を深められるような美術館を目指しました。

No.4

古賀　弥空 こが　みく
千葉県立市川工業高等学校　建築科

コミュニケーションセンター
地域住民が自然と集まる公民館

南側道路の向かいには郷土資料館があり、東側には公園が広がる。

公園で遊ぶ子どもたち、郷土資料館を利用する地域住民。

老若男女、いろいろな人たちが集う場所に計画された公民館。

ものづくり教室でつくられた作品や、地域の小学生の作品が展示され、その保護者たちの集いの場となるエントランスラウンジ。

公園で遊び疲れた親子や、散歩途中にふらっと立ち寄れるカフェ。

屋外エントランス広場では、中学校の吹奏楽部の発表会などが開かれ、2階の多目的ホールでは地域住民による様々な集いが行われる。

図書館からは、公園の緑を望み、静かな時間が流れる。

屋外テラスに誘う屋外階段と円形に切り取られたガラス張りの外観。

夜には灯籠のようにやさしく街の中に明るく浮かび上がる。

そこは、地域住民が自然と集う公民館となる。

第33回千葉県建築学生賞　なの花会メンバーからのコメント

作品No. **No.1**

コメント・改善／検討点

・テーマがとても良い / ・美しい情景を提案している / ・建築の全体性が見えない、それぞれの建築が単調。個々の建築にもっと魅力を。/ ・心地良い空間ができているか？潮の干満によって変わる空間を積極的に計画しても良かった。フローティングするなど。

作品No. **No.2**

コメント・改善／検討点

・模型から伝わる空間性が良い / ・構造材がすべて同じ材で良かったか？上に行くについれて細くなっても良い / ・メタボリズム的な要素を言及しても良い（建築の循環）、バッグミンスターフラーの影響を感じる / ・地域にこの姿で立つのがイメージしにくい、火星に立つ建築ならイメージできる。/ ・堅い建築のイメージ。人と地球を近づけるなら、柔らかさ、安らぎを感じるプレゼンテーションが合っても良かったのでは？（敢えてザラザラした質感を持ったプレゼンテーションにしていると理解）/ ・銅をもっと生かしても良かった / ・伊東豊雄ミュージアムに似て見えてしまうのがもったいない

作品No. **No.3**

コメント・改善／検討点

・模型で雪の有り、無しで表現しているプレゼンテーションが秀逸 / ・テーマ性が良い / ・春夏秋冬をそれぞれの魅力を持ってプレゼンテーションできると良い / ・雪の多／少で変わる風景の差のプレゼンテーションがあると良い / ・雪に包まれることの魅力（内部空間として）がもう少し欲しい
・住み手は本当に住みやすいのか？

作品No. **No.4**

コメント・改善／検討点

・建築のイメージが美しい / ・内観のイメージが弱いのが残念。内部空間として美しい空間ができているのは想像できる。/ ・ゲートが繋ぐもの（ゲートの先にあるもの）のあり方がもう少し意味を持っても良かった。現状、駅舎が町を分断している様に感じる / ・2階から町を眺める開口が無いのが残念、そこから町の風景を感じられるように / ・現代の、地域の図書館としてもっと新しい視点が無かったか？駅＋図書館というプログラムはすでにいくつもある。

作品No. **No.5**

コメント・改善／検討点

・町の住人にとって、祭り文化が日常に溶け込み、それを楽しみに待つ生活がイメージできる / ・展示してある図面に熱量を感じる / ・丁寧な計画である。反面、もっと飛躍した案、新しさを感じる案が見たい / ・点在する建物の計画は親しみが持てる / ・我孫子らしさをどう表現しているか？どこの町でも良いように見えてしまう

作品No. **No.6**

コメント・改善／検討点

・作りたい、という強い思いが評価できる / ・5つのパターンに分類したのは良い / ・ルトロネは地形を読み込んだ上で計画された建物。提案された建築には地形を読み込む要素が無い / ・作った建築に空間性が無い / ・ロマネスク建築の特徴は光。徹底的に絞られた少ない光の中で空間を感じるものであるが、光を感じる空間になっていない（＝光について表現／思考したプレゼンテーションが無い）/ ・廃墟の修道院へのリスペクトが無い（配置、ボリューム的）、また自然、地形との関係性が見えない / ・12Mのモジュールが大きすぎて、出来上がった建築が複雑そうで、実は単調に見える。スケールを小さくしても良かった（7をキーワードとするなど）・それぞれのスペースに対応した空間の変化が欲しい。崖部、景色が見える、既存修道院が近い等

作品No. **No.7**

コメント・改善／検討点

・良くリサーチ、分析できている。完成度の高い作品 / ・建物の透明性（中にいて街を感じる）が良い / ・すべてが木造で無くても良かった、延焼の危険が考えられるエリアにおいて。/ ・模型表現で、周辺の建物を透明に表現するやり方は良くない / ・計画した建物が、街のスケールに合っていない。大きすぎるのではないか？ / ・計画建物の自己主張が強い。もっと街に溶け込んだ感じを表現できた方が良い / ・設計した建物に空間を感じない＝提案している三角屋根の形に意味を感じられない

作品No. **No.8**

コメント・改善／検討点

・美しい平面計画、模型で感じる空間が良い / ・水位の変化を感じられる場所、それによる魅力をもっとプレゼンできると良い / ・ホテルとしてのプログラムが正しかったか？建築を歩いて感じる（シークエンスとして）魅力があるはずで、たとえば美術館のプログラムでも良い / ・建物の中から外を見た風景はどう見えるか？美しい情景ができているはずで、それのプレゼンテーションが乏しいので魅力を伝えきれていない / ・河口湖の提案だが、河口湖だからこそのオリジナリティ、説明が必要。どこの湖でも成立するのでは？

作品No. **No.9**

コメント・改善／検討点

・作者の問題意識、そして提案へのストーリーにとても共感できる。それを伝えるパースも良い。/ ・幕張の人口の街で森を作ろうとする発想が斬新で良い / ・都市の中に自然を感じる施設があるのは、リモート時代の現代において有用 / ・建物が散らばって周りを見下ろす雰囲気が良い / ・近隣の小学校と連携が合っても良い / ・地形をもっと生かして設計できると良い。起伏があるのみではなく。/ ・本当に森ができるのか？パースでは幕張のマンションの絵は描かれていないが、人口都市の中での森のあり方、全体性が見えるプレゼンがあると良い（自然と人工の対比のプレゼンテーション）/ ・建物が集合したときの計画（配置プラン）が弱い。/ ・幕張の特徴をどう考え、配慮しているのかが見えない / 参照：パリのエコスコール

作品No. **No.10**

コメント・改善／検討点

・テーマ、問題提起、プログラムがとても良い / ・既存密集地の中で、提案建築のボリュームバランスは良いが、密集地の中なので居住性の良さが感じられない。提案建物をもう少し小さくし、すこしでも緑地や自然を感じる様にできると良い。密集地なので、火事や延焼の配慮にもつながる。/ ・ガゼボ併設の住宅で、光や自然を感じられない。居心地の良さが考えられているか？ / →ガゼボがトップライトにしても良い / ・終の棲家として、人生最後を迎える場としての設計ができているか？そのための空間性が乏しい

作品No. **No.11**

コメント・改善／検討点

・発想は良い、情景も魅力的なものがイメージできる / ・それぞれの提案建物に空間の魅力が乏しい / ・暗渠になった部分は、それが発生した理由が合ったはず。それを克服する説明が無いと提案として弱い / ・街に挿入されているプログラムに合わせて、デザインの個別化が必要。単調な設計に見える。/ ・設計した建物と水路の情景は良いが、既存の雑居ビルのとなりに水路が走る部分＝街の大半の関係性はどうか？ / ・訪れた人がどう街全体を楽しむか、一連のストーリーが感じられる様にプレゼンすると尚良い / ・かなりの大規模土木工事になるのは懸念。それだけの大改造が本当に必要か？街にとって良いことか？ / ・運河の交通や機能を繋ぐ、という都市的な部分をもっと説明できると良い

作品No. **No.12**

コメント・改善／検討点

・ここでしか感じられない魅力、ストーリーがあって良い / ・力作。よく考えられている。/ ・賑やかさや活気を感じるプレゼンテーションが良い / ・地域住民にとってどう魅力を持った施設なのか、プレゼンができると良い / ・形態にもっと説明が欲しい。

作品No. **No.13**

コメント・改善／検討点

・圧倒的に美しい（全体計画、プランドローイング、風景等）、美しさを知っている / ・プラン、全体計画が秀逸 / ・既存のオリンピック施設のランドスケープデザインを踏襲しすぎている印象がある / ・内観パースが非常に良い。全体風景をプレゼンしたものがあると尚良い＝ユートピア感 / ・食だけでなく、人を癒やすプログラムがもっと欲しい。温泉や、メインボンドの活用等 / ・風景として、周辺との関係性の中で人をどう癒やすか？周りはコンテナヤードもある中で、海との関係性等

作品No. **No.14**

コメント・改善／検討点

・ランドスケープとして魅力的、力作。/ ・カーブのラインは美しいが、断面的な計画が弱い。/ ・平面計画が弱い。建物の配置含めて。/ ・プレゼンテーションでもっと茅を感じるものにできると良い。例えば宿泊スペースのインテリアとして茅があるなど。ベッドが茅でも良い。/ ・茅の可能性をもっと感じるプレゼンに。街にどう広がっていくか。/ ・構造、耐火の視点まで考えられていて良い

作品No. **No.15**

コメント・改善／検討点

・建築における美と幸福、現代ではなかなか問われないが、建築の根本テーマを追求していて良い。/ ・設計センスは抜群に良い / ・最終提案のNo.35の住宅が普通の住宅になっており、美を感じない。/ ・美しいとは体験があること。初期のスタディではそれを感じるが、条件が与えられるにつれてそれが弱まっている / →初期のスタディをそのまま住宅にしても良かった。現代のよくあるプログラムを当てはめるのでなく。オリジナルなプログラムが合っても良い。/ 参照：A+U／10月号　オルジャッティの「センスメーキング」の発想。「コンセプト」を持たない思考

作品No. **No.16**

コメント・改善／検討点

・模型が伝えるプレゼンテーションが良い、取り分け屋根と山のバランス / ・プログラムが良い / ・平面計画が弱い。あまり考えられた感じでは無い。/ ・斜面のだんだんの構成がどうか？自然のままの利用ならわかるが、切り出すのであればもっと魅力的に計画できる / ・大谷石採掘場の魅力は内部空間の美しさ、魅力。提案ではそれを伝えるプレゼンテーションになっていない。→内部模型写真をもっと大きく、魅力的にできると尚良い

作品No. **No.17**

コメント・改善／検討点

・今を状況に合ったテーマ性が良い。/ ・模型が見れなかったのは残念だが、提案施設の建築形態、プランも良い。/ ・パースのドローイングは雰囲気があって秀逸。オリジナリティがあるので、このテイストを今後のプロジェクトでも発展させて行くと良い。/ ・ゆったり、たっぷりなどの言葉のイメージは良いが、最終的にできたものが現代の図書館機能とあまり変わらない。図書館という機能に拘らなくても良いし、コロナと現代生活への回答をもっと言える提案になる可能性がある。

作品No. **No.18**

コメント・改善／検討点

・描いている空間が美しい / ・本当にここに訪れる人の気持になれているか？ / ・水の意味、十字架の意味、そこに現れるエレメントの意味が軽く見えてしまう / ・できた空間は美しいが、重い。本当に死を留まらせることができるか？ / ・シークエンスがあるようで、描かれていない。/ ・建物に出会うまでのストーリがあると良かった。死を求める人が森に入り込み、この建築に至るまでどういう軌跡を経るかのプレゼンテーションを。/ ・自分に出会う、過去を振り返る、などの想定が押し付けがましい様に感じる。施設を訪れて、そこにふと美しい情景がある、それだけで人は救われるのではないか？

審査員紹介

審査委員長

飯沼 竹一

Takeichi IINUMA

1962年千葉県松戸市生まれ。日本大学理工学部建築学科卒業。
(株)東建築設計事務所にて、病院、交通施設、商業施設などの設計工事監理を担当。2001年アトリエ24一級建築士事務所を設立。個人住宅、クリニック、店舗、福祉施設などをプロデュースしている。

出向元:(一社)千葉県建築士会

ワクワクするような発想と明確なコンセプト、それを伝える表現力と気持ちを感じたいと思います。すべての出展学生、審査員、会場関係者と一緒に熱く楽しい公開審査にしましょう!

有明客船ターミナル

真間の家

松波の家#2

審査副委員長

河原 泰

Yutaka KAWAHARA

1968年生まれ。神戸大学工学部建築学科卒業、1992年 (株)東畑建築事務所入社、1997年 (株)三菱UFJ リサーチ&コンサルティング出向2002年独立。現在(株)河原泰建築研究室代表取締役。
2009年千葉県建築文化賞(回向院市川)
2016年グッドデザイン賞(両国念仏堂) 2019年千葉県建築文化賞(ハレアカラ)

出向元:(公社)日本建築家協会

建築の未来を切り開く若者らしいアイデアを期待します。

回向院市川別院

回向院両国念仏堂

ハレアカラ

審査委員

関谷 和則

Kazunori SEKIYA

1971年 生まれ。1994年日本大学理工学部海洋建築工学科 卒業、1996年日本大学理工学部大学院 修了、1996年竹中工務店入社。
現在、東京本店設計部 設計ISD(6部門)設計2グループ長。
MIYASHITA PARK:GD賞 AIA JAPAN
新宿東宝ビル:BCS賞 GD賞
くらすわ:GD賞 北陸建築文化賞

出向先:(一社)日本建築学会

建築設計を志す皆さんの集大成となる作品を期待いたします。

MIYASHITA PARK

新宿東宝ビル(2015 年)BCS賞・GD賞

くらすわ(2010 年)GD賞・北陸建築文化賞

審査委員

向後 勝弘

Katsuhiro KOUGO

1953年千葉県生まれ、法政大学大学院修士課程工学研究科建設工学専攻修了、千葉県町村会建築研究所を経て1986年 (株)向後構造設計事務所開設し現在に至る。2014年から2018年まで(一社)日本建築構造技術者協会JSCA千葉の代表を務める。
構造設計専業の設計事務所として、建物の耐震改修に数多く関わるともに、公共建築から個人住宅まで、また、あらゆる構造形式の構造設計を手がけています。

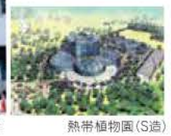
出向元:(一社)日本建築構造技術者協会
JSCA千葉

今回より、JSCA千葉賞を設けました。
構造デザインにも目を向けてください。

3階床にPC梁を使った重層体育館

枠付鉄骨ブレー外側補強

研修施設(RC造)



熱帯植物園(S造)

審査委員

牧野嶋 彩子

Ayako MAKINOSIMA

1972年千葉県生まれ。日本大学生産工学部建築工学科卒業。
H3年(株)アーツ&クラフツ建築研究所に入所。幅広い視点からの家づくり、まちづくりのプロジェクトに参加する。開発等を含めた様々な仕事に8年間携わり、H15年(株)空間計画提案室を東京都にて設立。
H28年、古民家に特化した(株)人と古民家を千葉市に設立。平成29年千葉県建築文化賞受賞。
一級建築士・一級古民家鑑定士

学生ならではの自由な発想を反映した作品を期待しております。またプレゼンの発表も楽しみにしています。

古民家の宿　まるがやつ

Y邸　八ヶ岳の別荘

桜を愛でるいえ

審査委員

河内 一泰

Kazuyasu KOCHI

1973年生まれ。東京藝術大学卒業後、同大学院修了、難波和彦+界工作舎を経て、2003年に河内建築設計事務所 設立。SDレビュー2002 新人賞、AR award 2009入賞(HOUSE kn)、2013年に日本建築学会作品選集新人賞(アミダハウス)、2015年にJIA新人賞(アパートメント・ハウス)、2019年にJIA東海住宅建築賞 優秀賞(タンザクハウス)。
2019年から東海大学工学部建築学科の特任准教授。

建築は使われ方が変化しても廃墟になっても形とその空間の質は残ります。みなさんの考えた建築のかたちに出会える事を楽しみにしています。

アパートメント・ハウス(2014.千葉)

タンザクハウス(2018.愛知)

審査員紹介

審査委員

櫻井 彩

Aya SAKURAI

1991年 千葉県八街市生まれ
2014年 千葉工業大学卒業
2016年 千葉工業大学大学院修了
同年　　オンデザイン入社

出向元：なの花会（出展者の会）

この作品を作ろうと思った背景や思いを丁寧に読み取りたい。
はじめるきっかけがどんなに小さくても、最後のアウトプットが少し先の新しさにつながるわくわく感のある提案を期待します！

シェアオフィス・コワーキングスペース
「GInnovation Hub Yokohama」

vivistop 柏の葉リニューアルPJ
「子どもたちが更新し続けるものづくり空間」

古民家リノベーション「シェアハウス-MINOYA」

コーディネーター

中野 正也

Msasaya NAKANO

1974年　京都府京都市生まれ
1997年　千葉工業大学工学部建築学科卒業
1997年～（株）野生司環境設計
2001年～（株）デネフェス計画研究所 取締役副所長
2001～2014　千葉工業大学工学部
　　建築都市環境学科非常勤講師
2014年～（株）neuf works（ヌフ・ワークス）設立
2016年～千葉工業大学創造工学部
　　都市環境工学科非常勤講師
第21・22回 審査員 / 第28回 審査副委員長 / 第29回 審査委員長 / 第30回 会長兼審査委員長
出向元：（一社）日本建築学会関東支部

作品に込められた想いや熱意を汲み取り、審査員の方々に問いかけ、そして審査会でじっくり語り合いたいと思います。
刺激的で夢のあるそんな面白い作品に出会えるのを楽しみにしています。

船橋Sビル

船橋Sビル

上野Mホテル

船橋M邸

主催者団体

（公社）日本建築家協会（JIA）
千葉地域会

● Tel：043-225-7881

建築の設計監理を行う千葉県内の建築家の団体。会員は、日本建築家協会の会員。専業建築設計事務所の主宰者、共同者、所員、官公庁、学校等に所属する建築家。

（公社）千葉県建築士事務所協会

● Tel：043-224-1640

建築士法により開設された建築士事務所の団体。会員は、建築設計事務所、建設会社の設計事務所、工務店設計事務所、不動産会社設計事務所、プレハブ業建築設計事務所等。

（一社）千葉県建築士会

● Tel：043-202-2100

建築士法により設立された一級建築士、二級建築士、木造建築士の団体。会員は、建設業、設計事務所、工務店、官公庁、学校、建材業、不動産業、プレハブ業に勤務する建築士。

（一社）日本建築学会関東支部
千葉支所

● Tel：043-202-2100

建築に関する学術・技術・芸術の促進発展を目的とする法人。全国に9支部36支所。会員は、研究教育機関、設計事務所、建設業、官公庁、公社公団、メーカー、コンサルタント、学生等多岐にわたる。

協力団体等

（一社）日本建築構造技術者協会
JSCA千葉

● Tel：043-225-2181

建築構造設計者、構造エンジニアで構成される職能組織。建築構造に関する賞としてJSCA賞、資格としてJSCA構造建築士を主催している。略称はJSCA。

なの花会　千葉県建築学生賞出展者の会

「なの花会」は、これまでの千葉県建築学生賞に出展した OB/OG の同窓会組織として、2009年6月に誕生しました。第一回の出展者から現役の学生まで、出身大学や世代を越えた幅広いメンバー間の、豊かな繋がりや交流を目的とした活動を行っています。

特別審査員

特別審査員

Arch. Antonio Esposito

建築家　アントニオ・エスポジト

1961年　ローマ出身
国立ミラノ工科大学　卒業。建築学修士
ボローニャ大学　国立科学員
ART_Arquitectural 科学委員会メンバー
ミラノ　マリオ・ベリーニ事務所を経て、ポルト街（ポルトガル）の調査，研究等を行い、ブルースキー・エスポジト事務所設立。ボローニャ大学で教鞭を執りながら現在に至る。
受賞作は、独立200年記念メキシコ・シティ・スクウェア国際コンペ（Bruschi協働）、ウナルキテットゥーラ展覧会　他。
フェルナンド・タヴォラ等　出版，執筆多数。モンテレー（NL、メキシコ）近代的，現代的アイテム会議等を開催。
日本に於ける作品は、横浜ビジネスパーク。（With Studio Mario Bellini）

横浜ビジネスパーク　（横浜ビジネスパーク HPより）

Competition for the new Siena stadium.

Row houses in Monopoli

Competition for the south-east coast in Bari

Competition for Libertà sq. in Cesena

Project Financing for the new Monopoli town hall

Free access to the beach and bathing facilities in Monopoli

Plaza Bicentenario in Tlaxcoaque area in Mexico City

Competition for a new square and a new primary school in Bisceglie (Bari)

Competition for the haedquarters of teh Fundación Arquitectura Contemporànea in Cordoba (Spain)

Competition for Villa della Regina in Turin

Competition This is Tomorrow Fundación Miguel Fisac (Spain)

Competition for the railway areas in Bari

Comments from the special judge (original)

It was a pleasant confirmation to note that once again this year, the projects that competed for the Chiba Awards are mostly focused on the landscape and on the possibilities of intervening to improve it, to take care of it.

This generation of architects and those that will follow have inherited a landscape outraged by utilitarian, functionalist logics, by self-referential formalisms accumulated over more than half a century. The objective that these projects seem to have is not to restore it to its pre-existing forms in a mad and unrealistic iconoclastic logic, but rather to look for the traces of an order that contemplates the landscape - urban and otherwise - as a whole capable of being read and interpreted as form and story of forms. And on these traces to provide an interpretative essay capable of operating through rewriting, underlining, erasing.

If it is possible to identify a way forward for contemporary architecture of any latitude, burdened by the waste of resources that the postwar period produced, I feel I can indicate to pursue with the project a visual order of things, of the scenes that are offered to the gaze.

In this, the architectural disciplines can offer more than other knowledge involved in caring for the planet: they can consider the environment as a world of forms that it is possible, indeed necessary, to govern. This is why I address an exhortation to young architects: adopt a landscape - small as it may be - and take care of it! Although in the pay of the most sinister businessman, the architect retains the foundation of civil responsibility of this profession, guaranteeing the aesthetic quality of the transformations, on behalf of the community.

審査員総評

審査副委員長 河原 泰

今年度はCOVID-19のパンデミックにより、学生達は学校に行くこともできない環境で卒業設計に取り組むという特殊な状況下であったが、例年に負けず劣らず力のある提案が揃ったと感じた。傾向としては、独創的であったと思う。突っ込みどころが多くあり、多角的な詰めが足りないと感じる反面、実現は難しそうだが新鮮な魅力があると感じる作品を見つけることができた。他人からのアドバイスや手助けを得られずに、一人で悶々と作業をする時間は苦しかったと思うが、その苦しみは創造を飛躍させる糧にもなったのだと思う。

相応に力をつけたはずであり、今後の活躍が楽しみである。

この苦しい状況で、最後まで耐えて頑張ったすべての学生にエールを送る。

Yutaka KAWAHARA

審査委員 関谷 和則

今回出展された18作品の出展者は、コロナ禍の影響を多大に受けています。大学での模型製作ができなかったり、直接指導の機会が極端に少ない状況下で自問自答を繰り返したりと、逆境のなかで卒業設計作品を作り上げてきたことに、敬意を評したいです。そして例年以上に「自ら建築を生み出すことの厳しさと難しさ」を痛感することができたのだと思います。卒業制作を通じて困難を自ら乗り越えたこと、ぜひ自信に繋げていただきたいです。そして設計者として、仕事を通じて暮らしを豊かにする取組みを推進していただきたいです。期待しております。

Kazunori SEKIYA

審査委員 向後 勝弘

コロナ禍の中で、2回目の学生賞審査となりましたが、昨年の教訓を踏まえて全体としてよくできた学生賞だったと思います。昨年に引き続きイタリアからアントニオさんに参加してもらうなど、逆にコロナ禍であったからこそできた演出で、イタリアとうまく繋がるか当日まで心配でしたが、うまくいってこれも良かったと思います。

作品は審査に悩むことが多い力作揃いで、毎年楽しみにしています。その一方で、事前に渡された作品の読み込みが足りないせいか、当日発表の時間が短いせいか、学生が自分の作品で何を表現したかったのかを、どこまで理解できたか心配しています。これからも、できる限り作品を理解した上で、適切な評価とアドバイスができるようにしたいと思っています。

Katsuhiro KOUGO

審査委員 牧野嶋 彩子

昨年に引き続き審査員をさせて頂きました。今年はコロナウィルス蔓延のため、学校での学習や課題制作に制限がある中、学生の皆様が色々と苦労をして作品を生み出していたんだろうなと感じる作品が多かったように思います。そんな中でも学生の皆様の力強い作品が多かったことはとても見応えがあり、皆さんの頑張りが嬉しく思いました。審査自体も制限がある中スムーズな進行が行われ、海外との通信など新しい試みも見応えがあったのではないかと思います。来年の作品にも期待をしています。

Ayako MAKINOSIMA

審査委員 河内 一泰

コロナの影響を受けたこの1年を通して、内と外の世界の大きさが逆転したような感覚を覚える。これまでは家の外には広い世界があり、社会は絶えず動き続け、外に出て働いたり遊んだりすることで社会の豊かさを享受してきた。しかし最近では外にある社会の動きは少なくなり、家の中で自分の世界を広げていく時間が増えた。卒業設計は自分の建築を深く考える絶好の機会であるが、今年の作品はよりその傾向が強く、自身と向き合った作品が多かったように思う。

僕の評価基準は「かたち」である。建築は用途が変わっても廃墟になってもその形が残り、かたちの持つ空間性も残ると思っている。なのでプログラムやストーリーの設定よりも、形の新しさや面白さ、オリジナリティについて、またその形がどのような空間性を持ち、人間の活動にどんな影響を与えているかを講評するようにしている。とはいえ自分の言葉は自分に返ってくる。学生の作品に講評をしながら同時に自分は出来ているのかと常に考えさせられた審査会だった。

Kazuyasu KOCHI

審査委員 櫻井 彩

卒業設計の審査員側というのは、わたしにとっては初めての経験となりました。

審査という視点というよりは、今の学生がどんなことに興味があって、どんなことを感じながら設計をしているのか本当に興味がありました。

様々な視点がある中で、私個人的な視点としては、設計を始めるきっかけが、どのようなリサーチやアプローチ、プロセスで設計の提案としてまとめているのかにすごく興味を持って聞くことができました。

また一方で、新型コロナウイルスの蔓延で、設計の行為にもたくさんの制限があったと思います。

このような状況でなければ、一緒に設計をしている同級生が周りにいて議論したり、客観的に見てもらう機会がたくさんあるはずですが、そのような機会がすごく減ってしまったのではないかなと感じます。

そんな中の貴重な講評の場であったと思うので、少しでも次に繋がったり、改めて自分の提案がどのような価値を持っていたのか発見できるような場になっていたらいいなと思います。お疲れ様でした。

Aya SAKURAI

協賛

JSCA千葉	260-0044	千葉市中央区弁天2-16-11(有)市原建築構造設計事務所内	043-252-6174
PAST会 会長　明智克夫			
(株)鈴木ユニット	262-0012	千葉市花見川区千種町241-11	043-257-5754
総合資格学院	273-0005	船橋市本町5-4-2森ビル6階	047-425-8034
(有)佐藤建基	262-0019	千葉市花見川区朝日ケ丘4-11-5	090-3202-2780
(有)巴工業	130-0002	東京都墨田区業平1-9-4	03-5608-4582
三協立山(株)	261-0023	千葉市美浜区中瀬1-7-1幕張テクノガーデンB棟20階	043-296-3292
(株)榎本建築設計事務所	260-0854	千葉市中央区長洲2-8-5	043-227-9345
(株)桑田建築設計事務所	261-0001	千葉市美浜区幸町1-2-2桑田ビル内	043-241-7511
千葉県建設防水工事業(協)	260-0013	千葉市中央区中央4-14-1千葉不動産ビル2階	043-222-4751
(株)千葉県建築住宅センター	260-0013	千葉市中央区中央4-8-5建築会館2F	043-222-0109
(株)レスト	166-0002	東京都杉並区高円寺北2-2-1巳善ビル5階	03-5356-8866
日建学院/(株)建築資料研究社	260-0032	千葉市中央区登戸1-2-20	043-244-0121
日本ファイリング(株)	101-0062	東京都千代田区神田駿河台3-2新お茶ノ水アーバンビル8F	080-7172-5474
児玉コンクリート工業(株)	171-0022	東京都豊島区南池袋1-16-20	03-3971-7195
(有)松原組	344-0022	埼玉県春日部市大畑9日神パレステージ112	048-734-4583
(株)千興商事	264-0003	千葉市若葉区千城台南4-11-15	043-236-3211
(株)ひらい	299-0111	市原市姉崎736-1	0436-62-2204
(株)スタジオ・チッタ	260-0843	千葉市中央区末広1-2-6	043-223-7676
西松建設(株)	105-6310	東京都港区虎ノ門1-23-1虎ノ門ヒルズ森タワー10階	03-3502-7625
塚本總業(株) 千葉支社	260-0005	千葉市中央区富士見2-3-1	043-227-8527
(株)オカムラ	260-0027	千葉市中央区新田町1-1	043-204-5790
コクヨマーケティング(株)	260-0045	千葉市中央区弁天1-15-1細川ビル4F	043-207-5581
(一社)千葉県建設業協会	260-0024	千葉市中央区中央港1-13-1建設業センター5F	043-246-7624
日軽パネルシステム(株)	260-0028	千葉市中央区新町18-14千葉新町ビル5F	043-302-7177
(株)メント	132-0021	東京都江戸川区中央3-5-5	03-5879-5470
アイカ工業(株) 千葉支店	260-0013	千葉市中央区中央1-11-1千葉中央ツインビル1号館8階	043-382-4311
(株)千葉測器	260-8567	千葉市中央区都町2-19-3	043-232-2541
日本ERI(株) 千葉支店	260-0028	千葉市中央区新町3-13千葉TNビル3F	043-203-8551
(株)日立ビルシステム	260-0031	千葉市中央区新千葉1-4-3WESTRIO千葉オフィス棟6階	043-241-1295
(株)辻板金工業所	263-0002	千葉市稲毛区山王町202-15	043-421-13411
(協)千葉県鐵骨工業会	260-0045	千葉市中央区弁天1-21-3石橋弁天ビル2階	043-247-2631
(株)角藤千葉支店	260-0031	千葉市中央区新千葉2-7-2	043-246-1131
(株)イトーキ千葉支店	261-7121	千葉市美浜区中瀬2-6-1ワールドビジネスガーデン(マリブイースト)21階	043-304-5510
立川ブラインド工業(株)千葉支店	260-0044	千葉市中央区松波2-8-1	043- 252-2821
TOTO	263-0016	千葉市稲毛区天台1-5-5	0570-023301
東リ(株)	260-0843	千葉市中央区末広4-18-1	043-208-1381
リリカラ(株)	275-0023	千葉市花見川区幕張本郷5-2-11アトレー幕張101	043-382-3375
(有)ミノル商事	260-0001	千葉市中央区都町1-9-2植草ビル	043-231-8450
(株)須藤黒板製作所	132-0035	江戸川区平井7-17-35	03-3617-8701
(株)青井黒板製作所	165-0026	東京都中野区新井1-1-5	03-3387-3330
(株)技研基礎	260-0843	千葉中央区末広5-8-6	043-266-6812
(株)恩田商工	260-0023	千葉市中央区出洲港9-10	043-242-1377
(株)LIXIL関東支社	263-0024	千葉市稲毛区穴川3-10-6	043-331-1710
前田製管(株)千葉支店	260-0007	千葉市中央区祐光4-7-10	043-221-2051
日章興(株)	263-0043	千葉市稲毛区小仲台6-18-1-406	043-287-1211
日本高圧コンクリート(株)千葉営業所	260-0021	千葉市中央区新宿2-1-20	043-242-4311
文化シヤッター(株)	264-0025	千葉市若葉区都賀3-33-23	043-231-2100
(株)格設計	262-0024	千葉市花見川区浪花町531-1	043-272-4193
(株)がもう設計事務所	274-0815	船橋市西習志野3-26-8ファインコート習志野2B	047-463-9901
(株)意匠院	260-0027	千葉市中央区新田町12-15　K16　401	043-203-0705
(株)セレコ	265-0074	千葉市若葉区御殿町2529-6	043-308-5120
タニコー(株)	261-0005	千葉市美浜区稲毛海岸2-1-285	043-248-0791
エスケー化研(株)	263-0003	千葉市稲毛区小深町122-1	090-5903-6210
(株)角井	292-0838	木更津市潮浜1-17-19	0438-37-4121
(株)国際技術コンサルタンツ	272-0035	市川市新出5-4-4岩本ビル902号	0473-26-3951
三和シヤッター工業(株)	260-0843	千葉市中央区末広4-19-16	043-265-3030
(株)ピーエルシー東京支店	101-0032	東京都千代田区岩本町1-4-5NS岩本ビル902号	
ロンシール工業(株)	130-8570	東京都墨田区緑4-15-3	03-5600-1866
田島ルーフィング(株)	260-0032	千葉市中央区登戸1-26-1朝日生命千葉登戸ビル9F	043-244-3711
コニシ(株)	260-0044	千葉市中央区松波2-13-20オフィス松波	043-305-5970

主催者団体

(公社)日本建築家協会千葉地域会(JIA千葉)

● 建築の設計監理を行う千葉県内の建築家の個人及び団体。
会員は、専業設計事務所の主宰者、共同者、所員、官公庁、学校等に所属する建築家

(一社)日本建築学会 関東支部・千葉支所

● 建築に関する学術・技術・芸術の促進発展を目的とする法人。
全国9支部36支所。会員は、研究教育機関、設計事務所、建設業、官公庁、公社公団、メーカー、コンサルタント、学生等多岐にわたる。

(一社)千葉県建築士会

● 建築士法により設立された1級建築士、2級建築士、木造建築士の団体。
会員は、建設業、設計事務所、工務店、官公庁、学校、建設業、不動産業、プレハブ業に勤務する建築士。

(公社)千葉県建築士事務所協会

● 建築士法により設立された建築士事務所の団体。会員は、建築設計事務所、建設会社の設計事務所、工務店設計事務所、不動産会社設計事務所、プレハブ業に勤務する地区設計事務所等。

企画・発行　千葉県建築学生賞協議会

会長	田端友康
審査委員長	飯沼竹一
副審査委員長	河原泰
審査委員	関谷和則・向後勝弘・牧野嶋彩子・河内一泰・櫻井彩
特別審査委員	Arch. Antonio Esposito [建築家・ボローニャ大学国立科学院 非常勤講師]
広報・ポスター委員会	中野正也・蒲生良隆・関谷和則・曽根岡拓路・寺川典秀・古里正
会場委員会	井桁正昭・野村優太・山下 勲・桑田浩司・加藤文男・宍倉義昭・大岩義充
受入・編集委員会	萩原進・佐久間達也・高嶋彰男・小野真路・岡田学・神成健
得点表示委員会	萩原進・佐々木達郎・小野真路・神成健
表彰委員会	磯野智由・岡松利彦・皆川拓・鈴木雄介・笠原由希・林祐介・星野治
市民賞委員会	磯野智由・鈴木雄介・岡松利彦・星野治
JIA出展委員会	森田敬介
イベント委員会	関谷和則・皆川拓・森田敬介
高校委員会	林祐介・首代昌紀・徳野淳哉・安達文宏
協賛委員会	鈴木周二・鈴木克則・野村優太・山田紀夫・坂本浩史・阿形信・藤平晴男・平宅武司・山本聡・吉浪弘之・岡田修治・長谷川舞・降旗勝義・平瀬慎一郎・合田武彦・高瀬俊輔
交流委員会	平宅武司・鈴木克則
オブザーバー	寺川典秀・神成健・森田敬介・宍倉義昭・柳田富士男
歴代会長会 (*:執行役員)	明智克夫・清水怡・麓佳正・櫻井修・宇野武夫・佐竹良造・寺川典秀 *・加藤文男 *・森田敬介 *・星野治 *・古里正 *・大岩義充 *・柳田富士男 *・安達文宏 *・神成健 *・中野正也 *
事務局	矢内美恵
編集/デザイン/印刷	株式会社みつわ
WEBサイト制作	株式会社みつわ